文化財調査報告書

平成８年度

前橋市教育委員会

第 27 集

文化財調査報告書

平成８年度

前橋市教育委員会

第 27 集

序

文化財の調査成果を、広く市民のみなさんに還元することも調査と合わせての責務であり、そのことによって本当に調査の成果が生かされるのだと思います。

平成８年度も、市内では多くの文化財調査や整備が実施されました。

保護管理運営事業では、市内に所在する国・県・市の指定文化財の管理を行いました。史跡の除草やパトロールを行い、史跡が美しく保たれるように作業を進めました。

整備事業では、総社・元総社歴史散歩道の案内説明板の設置や総社資料館の改修工事、総社・元総社歴史散歩道ガイド・マップの改訂と増刷、７回目となった秋元歴史まつりへの協力を行いました。また、総社二子山古墳の崩落箇所の修復を行いました。

さらに、市内に所在する指定文化財の標柱や説明板を順次立て替えしていますが、本年度は小島田の供養碑ほか11基の設置を行いました。

普及事業では、文化財展や愛護ポスターの作成を行いました。文化財展では、最近の市内の出土品の展示と発掘調査に係わる４回の講座を開催しました。

24回を数える郷土芸能大会は、前橋鳶木遣り保存会他の参加で行われ、その熱演は来館者をおおいにわかせました。

発掘調査では、前述の小二子古墳の調査の他に、公園整備に伴う内堀遺跡、区画整理に伴う大屋敷遺跡や元総社明神遺跡、土地改良に伴う国分寺参道遺跡、通路改良に伴う稲荷遺跡や六供下堂木遺跡、宮地中田遺跡などの調査が行われ、多くの成果をあげました。

遺跡台帳整備事業では、市内の遺跡のデータを台帳化するとともに、調査資料の普及作業も行いました。、本年度より、小・中学校での資料室整備の支援を行い、土器等の貸し出しを始めました。次年度も続ける予定です。

大室公園史跡整備事業では、古墳整備に向けての発掘調査と基本設計の作成、赤城型民家の２年次工事、資料館の基本設計の検討作業を行いました。

最後に、これら諸事業にご指導をいただいた関係各位・諸機関に感謝申し上げると共に、本書が文化財保護の推進に寄与することを祈念し、序といたします。

平成９年９月

前　橋　市　教　育　委　員　会

教育長　早　部　賢一郎

目　　次

序

Ⅰ　文化財調査委員による調査

円満寺・極楽寺……1

Ⅱ　文化財調査

1　光巌寺金工品調査……5

2　その他の調査……7

Ⅲ　新指定文化財紹介

1　石山寺蒔絵机……9

2　三具足　　一具……10

3　輪口瓜形釜　　伝芦屋一口　　附極め書三通……11

4　不二山古墳……12

5　総社神社の社叢けやき　　6本……13

Ⅳ　文化財保護事業

1　保護管理運営事業……14

2　整備事業……16

3　普及事業……18

4　埋蔵文化財調査事業……20

5　大室公園史跡整備事業……31

あとがき

Ⅰ　文化財調査委員による調査

文化財調査委員による調査は、平成８年度、後閑町の円満寺と亀里町の極楽寺の調査を行った。所蔵の什物と境内の石造物の調査結果は以下の通りである。

●円満寺文化財調査

○名称　医王山円融院円満寺
○所在　前橋市後閑町578
○住職　野平　俊融
○宗派　天台宗
○本尊　薬師如来

後閑町のほぼ中央に所在する天台宗の寺で、中世豪族新田氏の氏寺長楽寺の末寺として鎌倉時代に造られたという。また、平安時代の貞観三年、慈覚大師の開基ともいう。

本尊の薬師如来坐像は、檜の寄木造りで、円光背をもつ。細やかな螺髪と肉髻が刻まれ、通肩の納衣は胸を広くあけ、しなやかな衣皺は平行線を基調としながらも実に写実的である。右手は施無畏印を結び、世俗と仏身との隔たりをなくす慈悲深さを示し、左手には小型の薬壺を持つ。鎌倉時代の造立と推定される。

なお、境内地の北境だったと思われる場所に「お薬師さま」と呼ばれている、三石三尊坐像の石仏を収めたお堂がある。

角閃石安山岩を用いた半肉彫りの陽刻で、鎌倉時代後期の作品と思われ、県内でも少ない石仏である。中尊は宝珠形に近い丸みの強い舟形状の光背に、上品と思われる印相の阿弥陀如来が上半身裸形、結跏坐臥でいる。

●極楽寺文化調査

○名称　成菩提山光明院極楽寺
○所在　前橋市亀里町604
○住職　小林　邦順
○宗派　天台宗
○本尊　阿弥陀如来

亀里町の中央部、寺家地区にある寺である。小字は城之宮である。初め常磐山といったが、成菩提山と変わった。長楽寺の末寺である。

寺伝によると、開基は慈覚大師という。創建以来たびたび火災にあって、什物を失ったが、心献が再興し、中興の第一世と数えている。心献上人は天暦二年(948)になくなっている。

上野国群馬郡村誌に「上野国志曰極楽寺本尊弥陀如来は行基菩薩の彫刻にして源頼朝護持也」とあり、下川淵郷土誌によれば、その後鎌倉時代の建久四年十一月、源頼朝がその母常磐の追福のために寺の東、端気川の岸に碑を営み、護持の本尊を下賜し朱印地を与えたので常磐山といったという。時の人が常磐の霊を崇めて弁才天として祀った。

江戸時代には、幕府より朱印三十五石を受けている。

境内地は周囲に堀をめぐらし、現在も水をたたえている。西側には弁才天を祀っている。

現在、寺家の公民館裏にある五輪塔は常磐御前の墓と伝えられている。この塔は、公民館の場所にあった塚、常磐塚の上に立っていたが、公民館建設のために削平され、北に移されたものである。

円　満　寺

極　楽　寺

円満寺所蔵文書什物目録

文書番号	名　称	年　代	作成者	数	備　考
1	書「所酔心淡清」	不明	宏洞逸史書	1	30×113
2	五輪塔	南北朝		2	凝灰岩　地水輪と地火輪 地輪幅43　高35 水輪幅39　高42 地輪幅50　高30 火輪幅50　高28
3	筆子塚	天保十三年壬寅 六月二十一日	筆子連名　矢端猛太郎	1	後閑21　駒形1　當所5 西善6　山王1　泉沢20 大阿闍梨法印真善塔　予住當寺十有餘年寺務暇読誦大乗妙典二千部以資助冥福今也比土縁盡生移干他界依辞世日　妙法読し功徳の力にて輪回をへだて弥陀浄土
4	筆子塚	明治十六年癸未 八月		1	水久寄能後を汲し越しへ子等は可利はかりて都君る　奥都来 三部傳燈大阿闍梨堅者法印俊順
5	筆子塚	文化十四丑年 正月三十日	施主　筆子中	1	三部傳燈　大阿闍梨　堅者法印 恵運
6	筆子塚	文政元戊寅年 五月二十六日	筆子中	1	権大僧都　専敬法印
7	板碑			1	キリーク　幅20　高47
8	燈籠の棹部分	元禄十一戊寅年 中冬十三日		1	奉寄進　百燈籠　高42
9	筆子塚	天保九戊戌三月 二十四日	旭森	1	いそがねど　はや七十に 登りつめ　これより下る ごくらくの道 権大僧都阿闍梨法印敬減

極楽寺什物目録

カード番号	種　別(名称)	材質	法　量	備　考
1	極楽寺(弁天拝堂)棟札	木	不明	寶暦八戊寅年　願主当院廿八世　賢海代　奉造立辨財天御宮一宇並假屋氏子繁昌如意祈所　西村惣氏子中　新井村　浅見幸助光武　同名八郎治光命　江戸時代の物　新井村は旧桃井村のこと
2	本尊阿弥陀如来坐像	乾漆像	全高　42.5 肩幅　20.0 膝幅　34.5 奥行　26.7 頭高　14.5 頭幅　9.5 胸厚　12.5	銘文　銭十六貫文　奉修補　　主　阿弥陀佛　浄阿良阿　雲阿　下阿　　阿　学阿　助阿　浄空　竜阿佛師　静忍并長道　阿褥ス明圓　正和五丙辰三月日乾漆像　数回補修しており、元禄期に耳部分など直されている。手は後補。首部分も補修されている。この銘文は躰内膝裏の胎座銘文である。廚子銘文は次の通り。新造刻　廚子　殊尊像再興元禄八乙亥歳十一月十五日
3	極楽寺什物金剛界曼荼羅	紙本	全高 228 総高 130.2 全幅 136 絵幅 114	公用　天文八年己亥初夏日　上野国群馬郡上阿内郷成菩提山光明院極楽寺　法印猷乗代ト有之此時　新調欣組修補欣　寛政四壬子年七月日　三十一世　竪者法印良格修補之(箱の底部銘文)応永から明応期箱書　両界曼荼羅　成菩提山　極楽寺常什物

4	鉦	金属	径 41.8 高 12.0	上野国群馬郡阿内村極楽寺万日堂　施主　阿内宿矢嶋善八　同善之烝　天明六丙午年三月吉日
5	木彫十一面観音像	木	高 25.0 奥行 4.0 頭高 7.0	奉読誦観音経一万巻為現当二世也　南無真月道場佛柳暗華明圓入門　一万読経諸願満　福寿如海契慈恩造立主法印定光　佛師民別之住後七條之流院　長谷川宇右工門之尚令彫刻之　天和三年癸亥月日
6	元三大師造	木	高 20.0 肩幅12.5	室町時代末の作か　寄木造の像 銘当院廿六世豪賢弟子二宮千手堂　奉造立須弥壇金六
7	須弥壇	木	縦 134.5 横 43.5 幅 54.5	両施主祐昌　前机脇机禮盤新調賢海　上野国群馬郡桃井庄北新井村 軸台 両燈　磬台　須弥大工浅見幸助光武　同名八郎治光命　木挽勘之烝　宝暦八戊寅歳　十一月廿三日　当時廿八世現住豎者法印賢海代
8	板碑	石	長 84.0 幅 29.5	キリーク　サ　サク　（蓮台付）　廿七日 南北朝初期
9	板碑	石	長 85.5 幅 26.5	キリーク　サ　サク　（蓮台付） 応永十年十二月日
10	板碑	石	長 75.0 幅 25.5	キリーク　（蓮台付）　光明真言あり
11	板碑	石	長 92.5 幅 27.0	キリーク　（蓮台付）　サ　サク 應安か　南北朝
12	板碑	石	長 58.5 幅 24.5	キリーク　（蓮台付）　サ　サク 室町時代　基部欠
13	板碑	石	長 35.5 幅 19.0	キリーク　（蓮台付） 絹雲母片岩
14	板碑	石	長 49.0 幅 13.5	キリーク　（蓮台付） 枠線あり　室町時代
15	板碑	石	長 35.5 幅 17.0	キリーク　下半部　基部欠
16	宝篋印塔	石	高 78	逆修　永端禅門　應永廿四年　三月二十一日　上部欠
17	五輪塔	石	高 103	角閃石安山岩　古城址から移設したもので、するすみの墓といわれている。
18	五輪塔	石	高 79	文安四年四月　　禅尼
19	宝篋印塔	石	高 73	永和五年八月十一日　宗廣　上部欠 四周に梵字あり　光明真言のオンア　宗廣は名和氏
20	宝篋印塔	石		応永四年二月廿一日　逆修妙瑞禅尼
22	宝篋印塔の基礎	石		道永禅門　応永十七庚寅年十一月十九日
23	宝篋印塔	石		願主　圓廣　応永二乙亥十二月
24	宝篋印塔	石		逆修　慶廣禅尼　康正三年丁丑二月十六日

25	宝篋印塔	石		享徳二年二月
26	宝篋印塔	石		応永廿四年三月廿一日　逆修了忠禅門
27	宝篋印塔	石		覚照大師　應永十九年　三月
28	宝篋印塔	石		為銀栄妙鉉大姉　干明応九年庚申年六月四日
29	宝篋印塔	石		敬白　浄光定禅門　文明三年　八月十八日
30	宝篋印塔	石		妙清大師　応永十六年　十一月十四
31	宝篋印塔	石		逆修 敬白 経王一部 四部衆　文安四年十月十六日
32	筆子塚	石		當山　廿四世　竪者法印　　如　筆弟中 文久三癸亥天五月晦日
33	極楽寺宝塔	石		南北朝期のもの
34	けやき		目通453	
35	掛軸(三夜様)		縦　83	
			横　30.5	
36	掛軸(六字名号)		縦　76.5 横　26.5	
37	掛軸(二十二夜様)		縦　61 横　29	
38	金剛磐			室町時代のもの

II 文 化 財 調 査

1 光巌寺 金工品調査

（1） 三 具 足　　一具

江戸時代・19世紀

香炉　総高26.3　身高16.5　身口径14.8

花瓶　　高29.6　口径26.3　底径20.0

燭台　　高50.8　台径16.7

香炉　銅鋳製。南瓜形の身と蓮葉をかたどった蓋からなる香炉。身の口はやや低く、大きく外反し、側面に亀甲地に桔梗文を鋳出する。身本体は肩に花先形帯、裾に子持三条の紐帯を巡らして三区に分ける。上区は四花菱輪違文、中区には青海波文、下区には亀甲地に桔梗文をそれぞれ全面に鋳出し、中区の表裏に五葉木瓜文を大きく表わす。身の中央左右に大きな耳を出し、底に青海波を鋳出した三弁花形の足を三脚付ける。蓋は丸い蓮葉形で、甲盛りを大きくつけ、表面に太く蓮葉脈を陽鋳で表わし、所々に虫喰い状の孔を開け、それを煙出しとする。蓋中央に蓮茎形の鈕を付ける。身の底裏に「羽州善用作」の線刻銘がある。

花瓶　銅鋳製。朝顔形の口、卵形の胴、蓮葉形の脚からなる。口は胴から一枚の蓮葉を大きく朝顔形に開かせており、側面に太く蓮葉脈を鋳出する。胴は肩に花先形帯、裾に一条の紐帯を巡らして三区に分ける。上区は四花菱輪違文、中区には青海波文、下区には亀甲地に桔梗文をそれぞれ全面に鋳出し、中区の表裏に五葉木瓜文を大きく表わす。脚は蓮葉形、表面に太く葉脈を陽鋳で表わし、胴との境目に二段の段を作り出し、その下に弁先の尖った蓮弁帯を巡らしている。

燭台　銅鋳製。皿、軸部、蓮葉形の台脚からなる。皿は蓮葉を朝顔形に大きく外反させた形に作り、内側中央に燭立を付ける。軸部は皿から3分の一位までを細くし、その下に三本の紐帯を巡らして二区に分け、両区とも沙綾形文を鋳出する。さらにその下から台脚に向かって太くし、その中央を細く絞って二段に分け、上段には花先形で区分して四花菱輪違文と青海波に五葉木瓜紋を、また下段は肩に一条の紐を巡らして、亀甲地に桔梗文と青海波に五木瓜紋を鋳出する。台脚は蓮葉形、表面に太く蓮脈を陽鋳で表わす。

仏への最も基本的な供養として香、花、燈の三つがあげられるが、それを献ずるための香炉、花瓶、燭台を一具としたものを三具足と呼んでいる。当初から一具とする三具足は鎌倉時代、禅宗とともに中国からもたらされたが、遺品としては、奈良、唐招提寺の箱に永正十三年(1516)の墨書銘のある作、滋賀・聖衆来迎寺の箱に天正十五(1587)年の墨書銘のある作など、室町時代あるいは中国明時代とみられるのが古い。三具足は一具とするため、同一の文様で加飾されるのが基本であり、本作も蓮葉、四花菱輪違文、青海波、亀甲地に桔梗文、それに秋元家の家紋である五葉木瓜紋を主要な文様として統一している。総体に文様が細部までよく鋳出されていて、江戸時代の三具足としては出来が優れている。

香炉の身の底裏に「羽州善用作」の線刻銘があるが、この善用は羽州(山形県)山形の鋳物師で、文政十年(1827)西村山郡宝泉寺の梵鐘(山形住庄司清吉藤原善用作)、また年号を記さないが北村山郡善翁寺の梵鐘(山形御用鋳物師庄司清吉藤原善用作)に名を残している。御用鋳物師とみえること、文政の時代などを勘案すると、この時期の山形藩主は秋元久朝であり、秋元家の御用鋳物師であったと考えられる。また、この三具足を所蔵する光巌寺は文化七年(1810)、火災にあって建物のほとんどを焼失しているので、おそらく旧領地の秋元家の菩提寺である光巌寺の再建にあたって久朝が善用に作らせ寄進したものと考えられる。

（2） 燭 台　　一基

江戸時代・延享元年(1744)

高52.7　台径17.3

銅鋳製。皿、軸部、台脚からなる。皿は腰が低く、朝顔形に大きく外反させ、中央に燭立てを付ける。軸部は上から竹節、球、立鼓形の段を作り出し、竹節部の下段左右に獣耳を付し、球形部に五葉木瓜紋を線刻で表わす。また立鼓部の中央に二条の紐帯を巡らす。台脚はベル状に裾で大きく広がり、中央に子持三条の紐帯を巡らして絞り、以下のような銘文を線刻する。

〔銘文〕

奉獻　　御三具足

誠心院殿　　御霊前

延享元甲子年五月

銘文にあるように本来三具足をなしていたものだが、香炉、花瓶は失っている。延享元年二月二十六日に没した秋元喬求の霊前供養具として製作されたものである。江戸時代の三具足でも一般的形式を示す作である。

（3） 香炉・燭台　　二口

江戸時代・文化7年(1810)

香炉　総高28.8　身口径14.9　身高15.8

燭台　総高56.2　台径15.0

香炉　銅鋳製。獅子鈕の鼎形香炉。身は南瓜形で、口が鍔状に大きく張り出し、肩には段を作り出す。肩左右に大きな耳を付け、底には獣足を三脚取り付ける。身の側面中央片側に鍍金した五葉木瓜紋を嵌め込み、もう片側は同一の家紋を線刻で表わし、紋を挟んで、以下の銘文を線刻する。また蓋は鍔の付いた盛蓋で、直角の立ち上がりがあり、頂辺に臥して尻をたてる大きな獅子鈕を鋲留めし、猪の目形の煙出を透かす。

〔銘文〕

（表）

大隆院殿　尊前

文化七庚午年七月九日

（裏）
嶋田勘太夫良尚
田村作左衛門正義
根岸源兵衛侶清
押田六兵衛行信
間瀬市右工門好□
福井市郎兵衛秀栄
大沼角右工門忠賢
河野大助宗通
太田十右工門正方
加古勘蔵兼長
菅原給兵衛直重

燭台　銅鋳製。皿、軸部、台脚からなる。皿は腰が低く、朝顔形に大きく外反し、中央に燭立てを付ける。軸部は上から立鼓、球形などで、五段の段を作り出す。台脚はベル状で中央に子持三条の紐を巡らして腰を絞り、上段に鍍金した五葉木瓜紋を嵌め込み、もう片側は同一の家紋を線刻で表わし、紋を挟んで、香炉と同一の銘文を線刻する。

花瓶を失っているが本来三具足をなしていたものであろう。獅子鈕の鼎形香炉、段をいくつも作り出した燭台の形式など江戸時代の三具足の典型である。大隆院は文化7年7月9日に没した秋元永朝であり、その供養具として調進されたものとみられる。裏に記された十一人はおそらくこれを寄進した家臣であろう。

（4）　瓜形釜　　伝芦屋　　一□
室町時代・16世紀後半
高19.8　□径12.4　胴径21.0

□作りは低く、わずかに繰□風に端反りがみられる。鐶付は半円状の遠山。身は縦に十二個の筋をいれ、総体に瓜形となる。下半は後底。唐金一文字蓋（鈕は茶の実、透入り、座金五弁花）。

古来、天命とともに茶の湯釜の産地として名高い芦屋で作られたと伝える釜。江戸時代を代表的する釜師である大西家、堀山城家の次のような内容の三通の極め書が附属する。

（その1）
輪□瓜之風呂釜
一□大サ　　四寸一歩
一胴大サ　　七寸
一鐶付　　遠山
右者古キ芦屋上作
容はだへ一段見事
成釜只今迄加様成
道具之類無之候、能々
御秘蔵御尤二存候、代
百五拾貫可仕候、以上
未ノ　　御釜屋　　（「恒寿」）
五月六日　　法橋浄久（印）
（「延貞」）
五郎左衛門（印）

（その2）
貴札拝見仕候、被下候輪□
瓜ノ風爐釜□大サ四寸壱分、胴
大サ七寸、環付遠山、右之釜能々
一覧仕候、芦屋古上作一段
見事成釜二而御座候、此釜之義
古より存知候名高釜二而候者ゝ
能々御秘蔵可被成候、恐惶
謹言
六月　五日　　延貞（花押）
御釜屋
大西五郎左衛門
［　　］様
［　　］貴報

（その3）
輪□瓜之風炉釜
一□　　大サ四寸壱分
一胴　　大サ七寸
一鐶付　　撮
右之釜致一覧候所
分明成、古芦屋二而御座候
代百五拾貫可致候、以上
御釜屋　（「清次」）
寛文拾三年　　山城（印）
子六月上旬

（1）の文書は京都の釜師である大西家の二代浄清の弟浄久（貞享三年・1686没）と、江戸大西家初代定林（京都大西浄清の子、享保十二年・1727没）連名の極書きである。年代は未とあり、おそらく寛文七年（1667）か延宝七年（1679）であろう。また（2）は（1）の連名者の一人大西定林の手紙で、あいにく宛名は切り取られて分からない。内容に古くから知っており、名高い釜とあるところから、（1）より後の時期のものとみられる。（3）は江戸の釜師堀山城家の五代藤兵衛（享保元・1716））の極書きである。堀山城家は初代が京都の名越三昌（浄味）の二男で、幕命により江戸に下り、堀山城守を名乗り、名は代々清光であるが、この五代のみ清次と称した。

三通とも、この瓜の釜を古芦屋としている。芦屋は福岡県芦屋町で遠賀川河口に栄えた地で、茶の湯釜の生産地として名高く、その釜は室町時代は京都を中心に武家、貴族、僧侶たちの間で賞用された。芦屋釜の特徴は一般的に真形と呼ばれる端正な姿、鯰肌ともよばれる滑らかで光沢のある肌、そして絵画的な文様を繊細に表わすことなどである。しかし、この瓜の釜にはそうした芦屋釜の特徴と見えるところは全くなく、どうしてこの極めがついたか理解し難い。芦屋とともに賞用された天命釜は下野天命（栃木県佐野市）で作られたものだが、その特徴は芦屋釜とは対照的に、独創的な形、岩肌、荒肌ともよばれるごつごつとした肌、文様を表わさないことなどがあげられる。作風的には、むしろこの瓜釜は天命釜とみえるものである。

（5） 風　鐸　　一口

室町時代・15世紀

高26.0　径22.0

銅鋳製。縦長の万頭形の風鐸で、裾にむかって大きく外反し、裾は三段の花先形の四花弁に作り、その各間に猪の目を透かす。肩に3条、裾にも3条の陽鋳の紐帯を巡らす。頂部には半円形の釣鐶を付けるが、その上部には一文地の湯口の跡らしきものが残る。舌は欠失。

風鐸は堂塔の屋根の四隅の軒先や塔の相輪に吊るされ、舌にあたる風で音を発する荘厳、梵音具である。大きさなどからおそらくこれは軒先に吊り下げられていたものであろう。三段からなる花先形の裾の花弁の形が、室町時代前期の千葉・笠森寺の釣燈籠の笠の花先形と類似しており、その頃の製作と見られる。

（調査者　東京国立博物館　金工室長　原田一敏）

2．その他の調査

文化財保護課では、市民からの要望にお答えして、各種文化財の調査を行っています。平成8年度に実施した調査結果の一部を報告します。

（1） 新堀町内の石造仏調査

これは前橋市新堀町内の角田氏宅地内に所在する石仏である。法量は全高が73㎝、像高60㎝、顔高18㎝、肩幅33㎝です。像容は如意輪観音の立像で一面六臂、頭部に化仏を載せています。蓮華合掌印を組んでおり、他の手は、三又戟と宝珠を持っています。

厄除け観音として、江戸時代から地元で信仰されてきたものです。

銘文　奉造　　田村弥兵工門

田村八郎丞

貞享五年　辰戊

九月十四日　古沢六左工門

（2） 文京町四丁目八坂神社屏風調査

六曲屏風　一双

「晴耕雨読図」と思われる。

行年七十三歳

東湯軒白水

右双

水行図

耕作中読書図

板船就航図

左双

鎌で草刈図

巻物運搬図

草庵読書図

左双裏

福寿竹

虎晴與風

柿風気岸柳

松添来寿

来鳴行年寿

農耕絵図

安政三年竜集丙辰初夏朔日

應需　月海主人画

蓋嘗観於富人之稼乎其田美而多其食足而有餘其田美而多則可以更休而力地得完其食足而有餘則種之常不後時而欽之常及其熟故富人之稼常美少秋而多實久蔵而不腐今吾十口之家而共百畝之田寸々而取之日夜以堅之鋤獲　艾相尋於上者如魚鱗而地力竭矣種之常不及時而欽之常不待其熟此豈能復有美稼哉古之人其才非有大過今之人也其平居所以自養而不敢軽用以待其成閔々焉如嬰児之望長也弱者養之以至於剛虚者養之以至於充三十而後仕五十而後爵信於久屈之中而用於既足之後流於既溢之餘而発於持満之来此古之君子所以大過人而今之君子所以不久也吾少也有志於學不幸而早得興吾子同年吾子之得亦不可謂不早也吾今雖欲自以為不足而衆且安推之矣嗚呼吾子其去此而務學也哉博學而約取厚積而薄発吾告吾子止於此矣子歸過京師而門焉有曰轍子由者吾弟也其亦以是語之

琅扞居老人書

（3） 山形の鋳物師善用について

平成9年4月21日付けで前橋市指定重要文化財となった光巌寺の三具足の内、香炉の底にあった善用について調査を行いました。

山形は城下町であるとともに、鋳物の産地としても有名であった。記録に残っているだけでも、110人の鋳物師の名前がある。現在でも銅町に梵鐘つくりなど鋳物工業が続いている。

言い伝えによれば、延文元年（1356）足利氏の一族斯波家兼の次男兼頼が陸奥の大崎より移り、羽州探題として居館を営み、子孫は最上氏を称した。この時、九名の鋳物師が山形城建設に必要な品を供給したといわれている。この九人のうちの一人に庄司清吉の名前がある。しかし、山形市銅町の迎接寺の過去帳によれば初代清吉の没年は延宝四年（1676）で、斯波兼頼の山形入部より三百年後のことになる。

庄司清吉（屋号は佐野屋）は元和元年（1615）ころ、京都まで出向いて鋳造の先進地を見学し、はじめて銅町にたたらをもたらした。そして、唐金鋳物を造った最初の人といわれ、近世まで『佐野屋大黒』などと呼ばれて作品がもてはやされた。

庄司清吉ないし善用の名前が残る梵鐘としては次の七口の記録がある。ただし、いずれも太平洋戦争中の金属回収で供出して現物は残っていない。

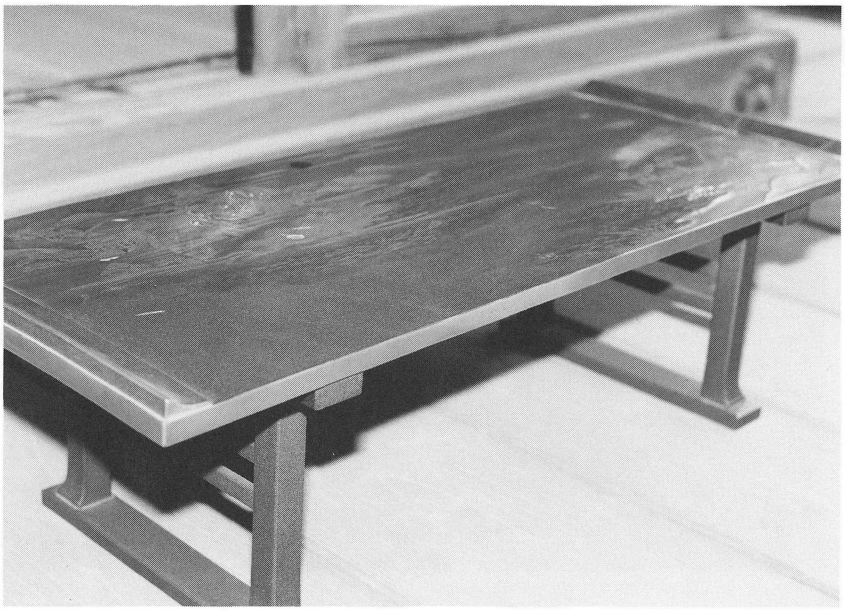
西村山郡西里村永昌寺（現、河北町）
「庄司清吉藤原善用　享和三年二月二十日」
飽海郡東平田村延命寺（現、酒田市）
「藤原善用　文政七年」
西村山郡溝延村宝泉寺（現、河北町）
「山形　庄司清吉藤原善用作　文政十年」
飽海郡田沢村冷泉寺（現、平田町）
「庄司清吉　天保二年」
北村山郡戸沢村照覚寺（現、村山市）
「庄司清吉藤原善用　弘化四年」
東村山郡干布村長龍寺（現、天童市）
「庄司清吉　嘉永五年」
北村山郡大石田町善翁寺（現、大石田町）
「山形御用鋳物師庄司清吉藤原善用作」

参考文献

『幻の梵鐘』小形利吉　昭和51年高陽堂書店
大石田町立歴史民俗資料館　関淳一氏教示

Ⅲ　新指定文化財紹介

1. 石山寺蒔絵机（いしやまでらまきえづくえ）



・区　分　　重要文化財
・記号番号　　重第71号
・指定年月日　平成９年４月21日
・所在地　　前橋市総社町総社1607　光巌寺
・所有者　　光巌寺
・管理者　　光巌寺

・概　要

天板の左右両端に幅広の筆返しをつけた大型の机。天板の裏に受木を打ち、四本の角形の脚柱をつけ、地摺の板で受ける。それぞれの脚の間には、補強のためには各二本の貫を廻らしている。

総体詰梨地。金の高蒔絵、薄肉高蒔絵を基調に、青金蒔絵、切金などを交えて文様を描く。月は銀の金貝で表されていたとみられるが、現状では欠失している。

天板の上面に描かれた文様は、いわゆる近江八景のうち、石山周辺の景観を描いたもので、左上方には月明に浮かぶ石山寺の堂塔を、右下方には瀬田の橋を配している。石山寺については、紫式部が源氏物語の執筆にあたった際参籠した、という伝説があり、そのためか、硯箱、料紙箱、書簞笥といった文房具の画題として石山寺が登場する例が数多くみられる。その作品もその範疇に入るものであろう。

なお、この机は、金や青金(金と銀の合金)を多用して豪華に飾られているが、元禄期以降に流行したこのような様式を、時の将軍徳川綱吉の院号に因んで常憲院時代物などと称する。

江戸時代、18世紀前半の作品。大名家から菩提寺へ寄付されたものであり、工芸品としても大変すぐれている。

法　量

幅93.6㎝　奥行39.5㎝　高28.8㎝

2. 三具足（みつぐそく）　一具（ひとそろえ）

・区　分　　重要文化財
・記号番号　　重第72号
・指定年月日　平成９年４月21日
・所在地　　前橋市総社町総社1607　光巌寺
・所有者　　光巌寺
・管理者　　光巌寺

・概　要

仏への基本的な供養として香、花、燈の三つがあげられるが、それを献ずるための香炉、花瓶、燭台を一具としたものを三具足と呼んでいる。当初から一具とする三具足は鎌倉時代、禅宗とともに中国からもたらされた。

三具足は一具とするために、同一の文様で加飾されるのが基本であり、本作品も蓮葉、四花菱輪違文、青海波、亀甲地に桔梗文、それに秋元家の家紋である五葉木瓜紋を主要な文様として統一している。総体に文様が細部までよく鋳出されていて、江戸時代の三具足としては出来がすぐれている。

香炉の身の底裏に「羽州善用作」の線刻銘があるが、この善用は羽州山形の鋳物師で、文政十年(1827)西村郡河北町宝泉寺の梵鐘や北村山郡大石田町善翁寺の梵鐘（山形御用鋳物師庄司清吉藤原善用作）など六口の梵鐘に名を残している。ただし第二次世界大戦末期の金属回収で供出し、現存していない。善用は藩の御用鋳物師とみえること、文政の時代などを勘案すると、この時期の山形藩主は秋元久朝であり、秋元家の御用鋳物師であったと考えられる。また、この三具足を所蔵する光巌寺は、文化七年(1810)火災にあって建物のほとんどを焼失しているので、おそらく旧領主の秋元氏が菩提寺である光巌寺の再建にあたって善用に作らせ寄進したものと考えられる。

江戸時代、19世紀初頭の銅鋳物製品。製作年代、伝来の経過がわかり、なおかつ工芸品としても大変すぐれている。

法　量

香炉	総高	26.3㎝	身高16.5㎝
	身口径	14.8㎝	
花瓶	高	29.6㎝	口径26.3㎝
	底径	20.0㎝	
燭台	高	50.8㎝	台径16.7㎝

わくちうりがたかま　でんあしや　いつこう　つけたりきわめがきさんつう

3．輪口瓜形釜　伝芦屋　一口　附極め書３通

・区　分　　重要文化財
・記号番号　　重第73号
・指定年月日　平成９年４月21日
・所在地　　前橋市総社町総社1607　光巌寺
・所有者　　光巌寺
・管理者　　光巌寺

・概　要

口作りは低く、わずかに繰口風に端反りがみられる。鐶付は半円状の遠山。身は縦に十二個の筋をいれ、総体に瓜形となる。下半は後底。唐金一文字蓋（つまみは茶の実、透し入り、座金五弁花）。

古来、天命（てんみょう）とともに茶の湯釜の産地として名高い芦屋で作られたと伝える釜。江戸時代を代表する釜師である大西家、堀山城家のこの釜が芦屋で作られたとする内容の三通の極め書が附属する。

芦屋は現在の福岡県芦屋町、ここは遠賀川河口に栄えた地で、茶の湯釜の生産地として名高く、その釜は室町時代は京都を中心に武家、貴族、僧侶たちの間で賞用された。芦屋釜の特徴は一般的に真形（しんなり）と呼ばれる端正な姿、鯰肌ともよばれる滑らかで光沢のある肌、そして絵画的な文様を繊細に表すことなどである。しかし、この瓜の釜にはそうした芦屋釜の特徴と見えるところは全くなく、どうしてこの極めがついたか理解し難い。芦屋とともに賞用された天命釜は下野天命（栃木県佐野市）で作られたものだが、その特徴は芦屋釜とは対照的に、独創的な形、岩肌、荒肌ともよばれるごつごつとした肌、文様を表さないことなどがあげられる。作風的には、むしろこの瓜釜は天命釜とみえるものである。

室町時代、16世紀後半の作品で、古来芦屋の釜として呼ばれてきたものであるが、天命釜と考えられる。工芸品として大変すぐれている。

法　量

高19.8㎝　口径12.4㎝　胴径21.0㎝

4. 不二山古墳

・区　分　　史跡
・記号番号　　史第18号
・指定年月日　平成９年４月21日
・所在地　　前橋市文京町三丁目151 番６
　　562㎡
・所有者　　前橋市
・管理者　　前橋市（文化財保護課）

・概　要

上毛古墳綜覧に前橋市第２号として登録されている古墳である。

以前は畑地であったが、昭和30年頃から宅地化が進み、周囲を住宅が囲んでいる。墳丘の北と西の一部は削られるが、辛うじて形を保っている。後円部南側に横穴式石室が開口していたが、現在は埋められている。

昭和29年の群馬大学史学研究室の調査によれば、やや小型の前方後円墳である。横穴式石室は両袖形で、石材は角閃石安山岩で、長めの丸石の五面を削り、壁石とする。積み方は互目積である。現在は安全のためふさいである。

盗掘されていたため出土遺物の全容はあきらかではないが、冠、直刀、槍、鉄鏃、耳輪、玉など県内の代表的遺品が含まれる。これらの遺物は群馬大学に保管されている。冠のしっかりしたものの出土は、県内では前橋市山王町金冠塚古墳に次いで二例目である。

また、この古墳の形状は、南側600mの国指定史跡天川二子古墳と相似形でその比は一対二となっている。このことは、両者に共通の古墳の設計ないしは企画があったことを示唆している。

平成８年９月に後円部である151番地６の土地が所有者の駒井まささんより寄付され、市の所有地となった。古墳前方部の土地は民有地である。

古墳の構築時期は６世紀末と考えられ、朝倉、広瀬古墳群の中でも代表的な古墳であり、出土遺物も優秀である。

法　量

全長	54.5m	後円部径	31.5m	高さ	7m
前方部幅	35m	高さ	6m		
石室全長	8.8m	玄室長さ	4.7m		
奥幅	3.05m	前幅	2.6m		
羨道長さ	4.1m	奥幅	1.53m	前幅	1.28m

5．総社神社の社叢けやき　6本

・区　分　　天然記念物
・記号番号　　天第2号
・指定年月日　平成9年4月21日
・所在地　　前橋市元総社町2377
・所有者　　総社神社
・管理者　　総社神社

・概　要

総社神社は、上野国の神社549社を集めて祀った神社で、永禄年間（1560年頃）に兵火を受けて、西北1㎞の位置から現在地に遷宮されたとの社伝がある。

境内地には、イチョウやけやきの巨木をはじめ、100本以上の樹木が茂っている。樹高も20mから30mと高く、遠くからでも神社の森を望むことができる。

境内中央の一番大きいけやきの木は目通りの周が6mあり、御神木となっている。他に周が3mを越えるけやきが15本あり、そのうち特に巨木6本を指定物件とした。

古い絵図をみると、神社の北側には池があり、境内地には樹木がうっそうと茂っていたようすがわかる。

現在は樹木はやや少なくなっているが、社叢を保っている。

なお、ここは、平成6年3月29日付けで、4900㎡の境内地が前橋市保存樹木の樹林地第6号として指定されている。

市内の社寺の境内地の樹木としては、残りがよく、神社の森を形成している。

Ⅳ 文化財保護事業

1．保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するために、平成８年度において、次のような事業を実施いたしました。

（１） 国有文化財管理

国指定史跡の(総社)二子山古墳と(天川)二子山古墳は、それぞれ地元の田中勝さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人にお願いし、日常管理を実施しました。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施いたしました。

（２） 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定のものが39件、市指定のものが106件あり合計166件の指定文化財があります。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの史跡を訪ねる人々の利便を図っております。

①指定区分別文化財（９．４．21現在）

区分 種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重要美術品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	33	5	0	0	1	0	39
市指定	72	17	2	7	8	0	106
合　計	108	33	3	7	9	6	166

②時代区分別文化財（９．４.21現在）

指定別 （件数） 時代別	国指定	県指定	市指定	合計	
				件数	割合%
天　　然	1	0	2	3	1.8
原　　始	1	0	0	1	0.6
古　　代	14	3	15	32	19.3
中　　世	3	19	31	53	31.9
近　　世	2	13	38	53	31.9
近　　代	0	3	5	8	4.8
民　　俗	0	1	15	16	9.7
合　　計	21	39	106	166	100

（３） 史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草・清掃作業を委託し史跡が美しく保たれるように作業を実施しました。

実施箇所等は、下記の表の通りです。

番号	物件名	区分	所在	面積
1	亀塚山古墳	市指定史跡	山王町１-28-３	2,484㎡
2	金冠塚古墳	市指定史跡	山王町１-13-３	2,407㎡
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町818	3,000㎡
4	車橋門跡	市指定史跡	大手町２-５-３	400㎡
5	酒井家歴代墓地	市指定史跡	紅雲町２-８-15	3,800㎡
6	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町１-27-７	730㎡
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町４-９-３他	15,081㎡
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町2659他	11,068㎡
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町五料1501	16,000㎡
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町内堀2616-１他	12,283㎡
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	総社町総社1587-２	1,793㎡
12	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社1606	2,204㎡
13	女堀	国指定史跡	東大室町・二之宮町・飯土井町	16,732㎡
計				87,982㎡

（４） 文化財パトロール

市内を５地区に分け、各地区に１名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施してきました。

平成８年度より事業量の増加により１地区ふやし、６人の指導員さんにより実施することになりました。

文化財パトロールの結果は、月に１～２回程度文化財保護課に報告していただき、管理していく上での情報を伝えていただきました。そのため、緊急事態に対処することができました。

各地区の文化財保護指導員は、下記の表の通りです。

地　区	氏　　名	住　　所	電　話
中　　央	福　島　守　次	天川大島町	
総社　清里	関　口　淳　七	総社町総社	
東　元総社他	中　島　孝　雄	石倉町	
広瀬　山王	関　根　辰　雄	山王町一丁目	
芳賀　南橘	栗　原　秀　雄	荒牧町	
城　　南	森　村　伊勢雄	富田町	

（5）　前橋市蚕糸記念館の整備及び管理

この建物は明治45年国立原蚕種製造所の本館として建てられたもので、エンタシス状の玄関の角柱、レンガ積みの基礎、高い天井、大壁造、横箱目地板張など明治時代の代表的洋風建物であり、昭和56年県指定重要文化財に指定されました。

翌57年蚕糸記念館として一般公開され、ここには養蚕、製糸関係の品々が展示されており、毎年多くの入館者でにぎわっています。

前橋市蚕糸記念会館

（6）　後援・共催

秋元歴史まつり

後援、平成８年11月９・16・17日

近代化遺産保存キャンペーン

後援、平成８年10月22日～11月３日

2．整備事業

（1） 歴史散歩道整備事業

平成８年度は、総社・元総社歴史散歩道案内表示板等増強工事、総社資料館（案内・休憩施設）西倉改修工事を始め、次の事業を実施しました。

尚、新散歩道（城南歴史散歩道）計画については、他事業との関連を勘案しつつ、基本構想策定に向け、引き続き基礎調査・事業方針等の検討を進めています。

①総社・元総社歴史散歩道案内表示板等増強工事

見学者及びその交通手段等の多様化に応ずる手立てとして、散歩道内適所に分かりやすさに配慮した案内表示板（４カ所）、イラストマップ案内板（総社資料館敷地内）を増強整備しました。

②総社資料館（案内・休憩施設）西倉改修工事

散歩道拠点として昨年オープンした総社資料館施設のの一層の充実を図るため、西倉改修工事（床張、内部改装等）を実施しました。今後展示等も工夫し、見学者の方々により親しまれる資料館運営に努めてまいります。

③総社資料館（案内・休憩施設）駐車場用地借用

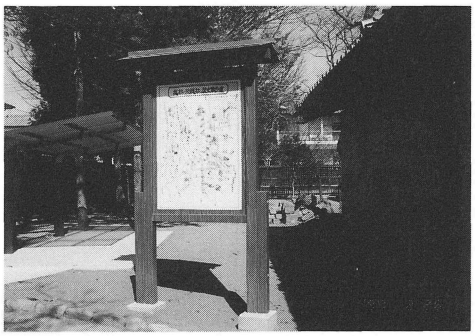
資料館運営の一環として、資料館の南側に見学者用駐車場（普通車対応）を確保しました。

④総社・元総社歴史散歩道ガイドマップ改訂・増刷

地図、写真、記載事項等の見直しを行い、改訂版として2,000部増刷しました。

⑤「第７回秋元歴史まつり」への協力（11月９・16・17日）

今年度は、３年ぶりに武者行列が復活し、鎧・兜に身を包んだ武者達が出陣式と行列で勇壮な戦国絵巻を繰り広げました。また、新保一美氏による講演「元総社の歴史と風俗」、郷土芸能「大友太鼓、明神太鼓」の公開等多彩な催しが執り行われ、約25,000名の参加者で賑わいました。



「総社・元総社歴史散歩道案内表示板等増強」

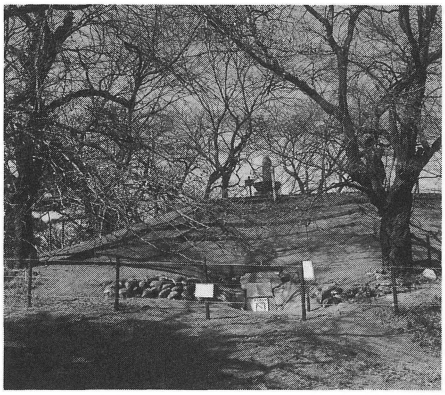
「第７回秋元歴史まつり」

年次計画

	昭和62～平成７年度	平成８年度	平成９年度以降
資料館	企画・調査 敷地、建物借上 基本構想 基本設計 実施設計 展示設計 整備工事 展示、開館 （管理・運営）	管理・運営 整備（改修）工事	管理・運営
案内表示	道路路面プレート等設置（85基）	案内表示板等設置（５基）	案内表示板等設置 （90基程度）
散歩マップガイドブック	散歩マップ・ガイドブック 作成・増補 イラストマップ 原図作成	散歩マップ 改訂・増補	散歩マップガイドブック 作成・増補
指定復原図説明板設置	図版原稿作成 説明板設置（12基）		推定復原図説明板等設置 （５基程度）
便益施設整備	用地借用	用地借用	用地借用等
新散歩道計画	企画・調査	企画・調査	企画・調査～基本構想

（2） 二子山古墳（総社）修復工事

平成６年度より、前橋市総社町植野にある国指定史跡二子山古墳の崩落箇所をはじめとした遺構・保存施設の修復工事にあたっています。今年度は、崩落により前方部石室内及び開口部前面に堆積した土砂を除去し、見学しやすい状態に回復しました。また、崩落の著しく進んだその周辺斜面に盛土、土留板設置等の崩落防止工を施しました。この工事については、現状を鑑み十分な養生期間の後、次年度以降段階的な施工を実施していきたいと考えています。この他、前方部数箇所にも盛土・植栽等の修復工事を施しました。



「二子山古墳（総社）修復状況」

(3)文化財標柱・説明板・案内板等設置工事

平成8年度は、次に挙げる指定文化財・史跡の標柱等の新設、立て替えを実施しました。昨年度に引き続き標柱には御影石、説明板にはステンレス材を使用し、耐久性を高めるよう工夫するとともに、実際に目にすることのできないものについては、写真等を挿入するなどの配慮を施しました。また、本年度は、新設、既設の説明板(11基)に昭和62年度より実施している文化財愛護作品コンクール標語の部の優秀作品を記載した標語板を取り付けました。文化財への愛護、理解啓発への一助となれば幸いです。

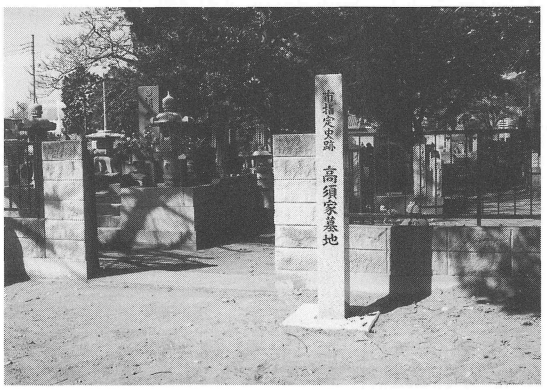
※標柱の新設・立て替え……4基

①市指定重要文化財「小島田の供養碑」　(小島田町)
②市指定史跡「高須家墓地」　(三河町)
③県指定重要文化財「総社本上野国神名帳一巻・総社神社懸仏二面・総社神社雲版一面」　(総社神社)
④市指定重要文化財「総社神社拝殿」・市指定重要無形民俗文化財「総社神社の筒粥置炭式」　(総社神社)

※説明板の新設・立て替え……6基

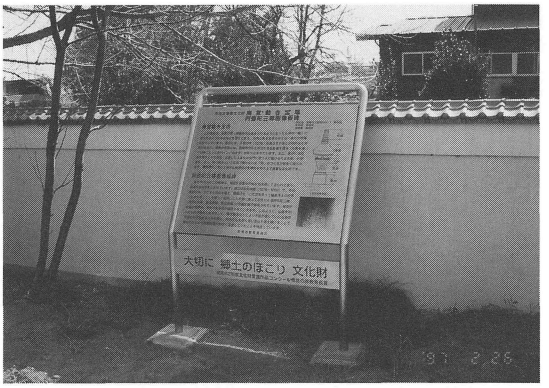
①市指定重要文化財「小島田の供養碑」　(小島田町)
②市指定重要無形文化財「春日神社太々神楽」(春日神社)
③市指定重要文化財「廃覚動寺宝塔・阿弥陀三尊画像板碑」　(乗明院)
④市指定重要文化財「東福寺鰐口」　(東福寺)
⑤市指定重要文化財「江木の宝塔」(金蔵院共同墓地内)
⑦市指定史跡「新田塚古墳」　(上泉町)

「標柱・説明板の立て替え(小島田の供養碑)」



「標柱の新設(高須家墓地)」

「説明板の立て替え(春日神社太々神楽)」

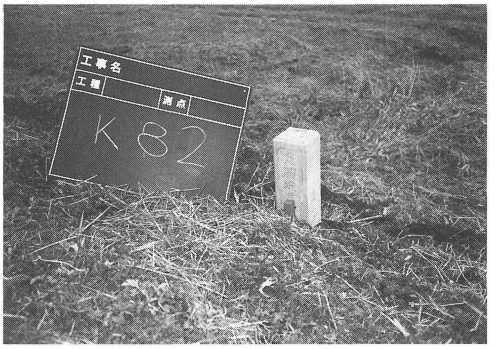


「説明板の立て替え(廃覚動寺宝塔・阿弥陀三尊画像板碑)」

(4)史跡境界杭設置工事

平成8年度は、国指定史跡女堀(二之宮地区)の境界位置を復元しました。

「国指定史跡女堀(二之宮地区、県道沿い)」



「境界杭打設状況」

3．普及事業

（1） 第22回前橋市文化財展

・日　時　平成８年11月２日(土)～12月８日(日)
・会　場　前橋市中央公民館　１階ロビー
・テーマ　出土品に見る前橋の歴史
　　ー最近の発掘調査からー

前橋市教育委員会のほか群馬県教育委員会や群馬県埋蔵文化財調査事業団が、ここ10年間に市内で発掘調査した出土品の中から、本市の歴史を知る上で注目される出土品を中心に、旧石器時代から江戸時代まで13のコーナー(テーマ)を設定し、38遺跡601点(出土品530点、写真・パネル等71点)の資料を展示しました。

また、期間中、2,222人の方に見ていただき、文化財保護課職員が展示物の案内・説明や、文化財一般に対する質問等にもお答えしました。

（2） 文化財愛護ポスターの作成

児童・生徒の文化財に対する愛護の気持ちを培うために文化財愛護作品コンクール(標語と絵画)と、その最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施しています。

今年度は、ポスター作成の年として、昨年度実施した第７回文化財愛護作品コンクール標語の部市長賞(久保田常紀・桂萱東小５年)と絵画の部市長賞(後閑久昌・上川淵小６年)を使い、文化財愛護ポスターを作成しました。ポスターは、市内小・中学校及び公民館、文化財管理者などに配布しました。

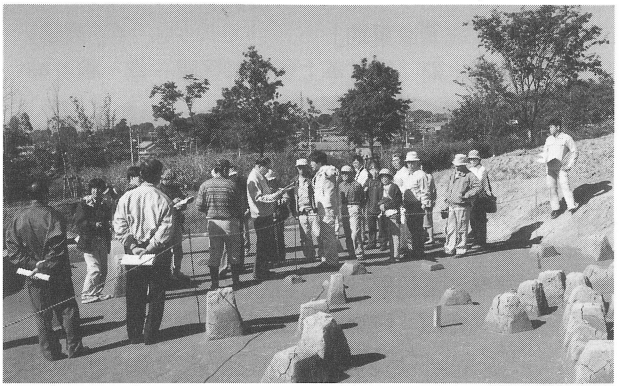
（3） 発掘調査等の現地説明会

・期　日　平成８年10月27日(日)
・会　場　大室公園内　発掘調査現場・民家移築現場

前橋市では、すぐれた自然景観で知られる赤城南麓の大室の地に「大室公園」の建設を進めています。

これに伴って発掘調査の行われている国指定史跡の小二子古墳、Ｍ４号墳、旧石器の調査の公開並びに説明、そして出土品の展示をいたしました。また、併せて旧関根家住宅(赤城型民家)の移築状況も見ていただきました。

素晴らしい秋晴れに恵まれ、県内外から約300名の人が訪れ、熱心に見学しました。

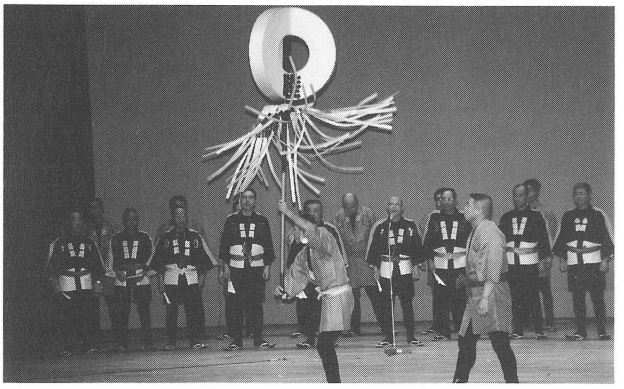


（4） 第24回前橋郷土芸能大会

・日　時　平成８年11月９日(土)
　　午後２時～４時半
・会　場　前橋市民文化会館　小ホール

市内に伝わる郷土芸能を保護・育成し、広く公開することにより市民文化の向上を図ることを目的に、開催しました。

本年度は６団体に公演していただきましたが、市外からの出演者もあり、また熱演で市内外の来館者約500人を大いにわかせました。



○公演および出演団体

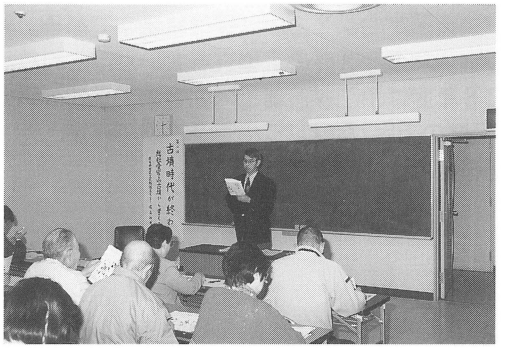
前橋鳶木遣・纏振り	保　存　会　(城東町)
東善の獅子舞	保　存　会　(東善町)
上青梨子の盆踊り	自　治　会　(上青梨子町)
上州馬子唄	桧沢芳月さん他２名　(富士見村)
住吉祭り囃子	保　存　会　(住吉町一丁目)
総社神社太々神楽	保　存　会　(元総社町)

（5）第13回文化財普及講座

・テーマ　前橋における歴史の転換点
　　ー最近の発掘調査からー
・会　場　前橋市中央公民館　第2学習室

本年度の講座は、最近の発掘調査で明らかになってきた前橋の歴史のうち、時に変革期に着目して、時代の特色と前後の時代層を浮き彫りにするとともに、併せて市内の遺跡の重要性と歴史を学ぶ楽しさを理解していただけるよう計画しました。また、この講座では、文化財展と併せて同じ会場で開催し、展示と一体の理解しやすい講座を目指しました。

回	期日	テ　ー　マ	講　師
1	11/2	旧石器人あらわれる ー西大室内堀遺跡群から考えるー	津島秀章 （県埋文調査センター）
2	11/16	古墳時代が終わる ー総社愛宕山古墳から考えるー	右島和夫 （県埋文調査センター）
3	11/23	法と役人の時代はじまる ー官衙関連遺跡から考えるー	松田　猛 （県文化財保護課）
4	11/30	酒井氏の時代がはじまる ー前橋城遺跡から考えるー	桜岡正信 （県埋文調査事業団）



（6）　郷土芸能映像記録保存事業

郷土芸能は長い伝統に培われたにもかかわらず、次の世代への伝承が危ぶまれる状況にあります。そこで、特に前橋市指定の重要無形文化財の郷土芸能の正確な継承と市民への普及活動を目的として、道具や演技の方法、しぐさ、間合いなど一挙一動、声なども細かく記録するため、ＶＴＲ専門業者に撮影・編集を委託し、レーザー・ディスクにして永久保存を図ることとしました。今年はその第一年目として、市東部の泉沢町に伝わる稲荷藤節を収録しました。

（7）　文化財めぐりパンフレット

史跡めぐりを通して前橋の歴史と地域の文化を学ぶために活用していただいていますが、毎年好評をもって迎えられ、今年も残部が少なくなってしまいました。そこで、全６コース（総社、元総社、城南、広瀬・朝倉、芳賀・桂萱、旧沼田街道沿い）を増刷いたしました。

増刷に当たっては、新しく指定となった文化財をつけ加えるとともに、標語も今年度実施した文化財愛護作品コンクールで受賞した優秀作品に替えました。

（8）　教材開発事業

学校教育や社会教育で活用されることを目的として、２か年で１テーマの歴史・文化財スライドを作成しています。

今年度からは、「前橋の郷土芸能」をテーマとし、市内各地に伝わる郷土芸能を紹介するスライド全40コマのうち、23コマ分を作成しました。

（9）　各種講座、史跡・文化財めぐりへの講師派遣

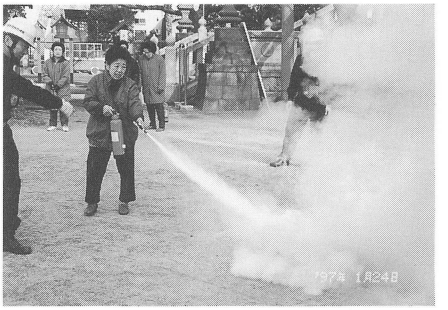
地区公民館主宰の生涯学習や各種団体の学習、小学校の社会科見学、自治会・老人会の地域の史跡めぐり研究会の講師など、年間で約30件の依頼がありました。のべ約1,000人の方に、豊かな前橋の文化財と地域の歴史を理解していただきました。

（10）　文化財防火デー

昭和24年１月26日に奈良県法隆寺の金堂壁画が焼失したことをきっかけに、毎年実施されている文化財防火デーは、今年度で第43回目になりました。

今回も前橋市消防本部と協力して、下記の消防演習や指定文化財所在地の立入検査を行いました。

［消防演習］　１月24日　　前橋八幡宮
［立入検査］　１月24日
旧蚕糸試験場事務棟、旧アメリカン・ボード宣教師館、妙安寺、東照宮、源英寺、東福寺、臨江閣本館・茶室・別館、神明宮の甲冑（市立図書館）、孝顕寺、円満寺、駒形午頭天王の獅子頭、慈照院、無量寿寺、二宮赤城神社、産泰神社、総社神社、光巌寺、徳蔵寺、大徳寺、日輪寺、善勝寺、上泉郷蔵



（11）　文化財資料の貸出

本年度の文化財資料の貸出は、市内小学校、県内外の博物館・資料館・出版社など、21件（内、写真資料16件）でした。主なものは次の通りです。

貸出資料	貸出先
山王廃寺瓦等	群馬県立歴史博物館 高崎観音塚考古資料館
大室３古墳埴輪等	群馬県立歴史博物館 しもつけ風土記の丘
頭無遺跡細石器	石器文化研究会

（12）　文化財保存団体助成

史跡の清掃や標柱の設置、郷土芸能の継承など、市内で文化財の保護・保存のために活動している次の文化財保存団体に、本年度も補助金の助成をしました。

・総社地区史跡愛存会
・荒砥史談会
・前橋市郷土芸能連絡協議会

（13）　産泰神社の保存修理事業

昨年度より、群馬県指定重要文化財の産泰神社の保存修理と防災設備の新設と年次計画により実施しています。

今年度は、幣殿と神門の工事を実施しました。

平成７年度	本殿・拝殿工事
平成８年度	幣殿・神門工事

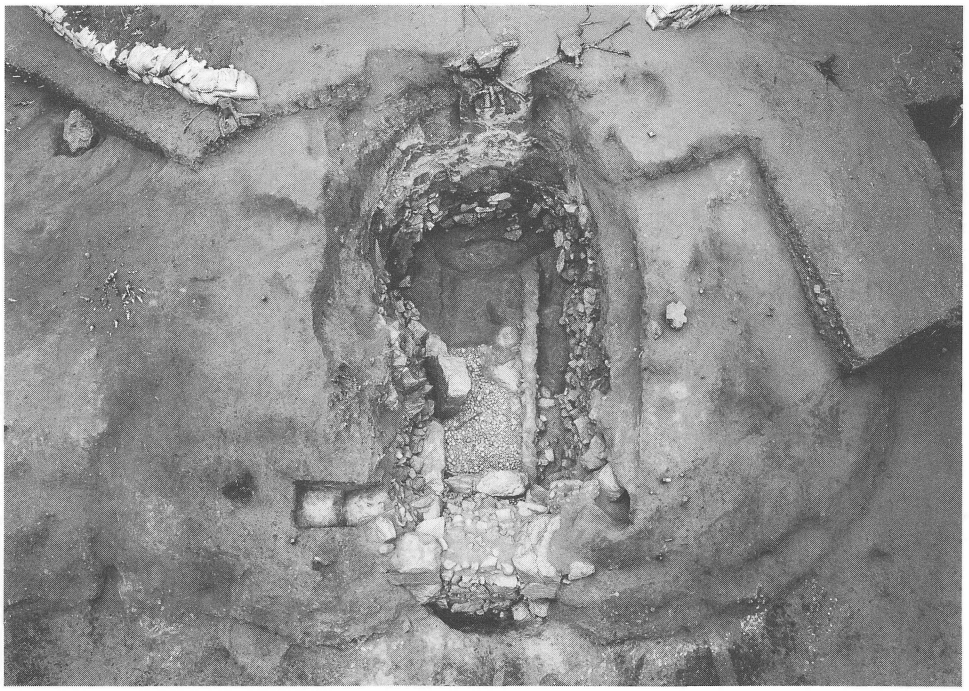
4．埋蔵文化財調査事業

平成８年度の発掘調査をふりかえって

平成８年度は14カ所の発掘調査が行われた。発掘調査は公共開発に伴うもので、調査原因は、史跡整備１件、公園整備１件、区画整理４件、土地改良１件、道路改良５件、水道施設１件、公民館建設１件、市営住宅１件である。調査の総面積は42,424.74㎡を測る。西大室町の小二子古墳では、史跡整備に伴い、古墳の範囲規模の確認のほか、石室の調査を行い、多くの埴輪や土器が出土した。同じく西大室町の内堀遺跡群Ⅸでは、公園整備に伴い発掘調査が行われ、旧石器や古墳時代の住居跡、平安時代の地割れなどが検出された。総社町の大屋敷Ⅴ遺跡では区画整理に伴い発掘調査が行われ、古墳時代から平安時代の住居跡などが検出された。本年度調査で大屋敷遺跡の調査は終了した。上野国分寺参道遺跡では、土地改良に伴い発掘調査が行われた。古墳時代から平安時代にかけての住居跡などが検出された。国分寺の南に位置するが、遺跡の名称ともなっている国分寺参道は検出されなかった。元総社町の元総社明神ⅩⅢ遺跡では、古墳時代と平安時代の住居跡が検出された。昭和57年から行われた元総社明神遺跡の調査は、数々の成果をあげて本年度で終了した。箱田町の稲荷遺跡では道路改良に伴い発掘調査が行われ、古墳時代と平安時代の水田跡などが検出された。六供町の六供下堂木Ⅱ遺跡では、道路改良に伴い発掘調査が行われ、古墳時代の水田跡と住居跡、平安時代の水田跡が検出された。宮地町の宮地中田遺跡では、道路改良に伴い発掘調査が行われ、平安時代の水田跡が検出された。近年、前橋南部での水田跡の調査件数が増加している。富田町の稲荷前遺跡では、水道施設建設に伴い発掘調査が行われた。調査の結果古墳２基と古墳時代住居跡等が検出された。小坂子町の小坂子油田・小坂子油田Ⅱ遺跡では、道路改良に伴い発掘調査が行われ、古墳３基、縄文時代の陥し穴などが検出された。鶴光路町の鶴光路練引遺跡では公民館建設に伴い発掘調査が行われ、平安時代の水田跡が検出された。広瀬町の広瀬古墳群(神明)は市営建設に伴い発掘調査が実施され、古墳１基が検出された。文京町の天川二子山古墳Ⅱでは、区画整理に伴い発掘調査が行われ、天川二子山古墳の堀の一部が検出された。

また、平成８年度は39件の市内遺跡による発掘調査が行われ、13カ所で遺跡が確認され、５カ所が調査され、５カ所が調査予定で、３カ所は保存協議中である。その他５件の確認調査と３件の工事立ち会いが行われた。

さらに８年度は小二子古墳と内堀遺跡で現地説明会が行われ、多数の市民が訪れた。小二子古墳の石室と28,000年前の旧石器は、注目をあびていた。



小二子古墳石室（上から）

平成８年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡コード	遺　跡　名	所　在　地	調査面積㎡	調査原因	調査年月日
1	8E－11	前橋市小二子古墳	西大室町2141	647	史跡整備	8. 6. 3～12. 9
2	8E－11	内堀遺跡群IX	西大室町2510他	1,497	公園整備	8. 4. 24～12. 2
3	8A－60	大屋敷V	総社町総社1991他	972	区画整理	8. 5. 8～10. 21
4	8A－77	上野国分寺参道	元総社町字西川1530他	3,635	土地改良	8. 9. 5～11. 30
5	8A－76	元総社明神XIII	元総社町2407－10	120	区画整理	8. 5. 20～6. 28
6	8A－78	稲　荷	箱田町281 －１他	7,372.48	道路改良	8. 7. 24～12. 18
7	8H－22	六供下堂木II	六供町667 －１他	6,636	区画整理	8. 5. 1～8. 9
8	8G－15	宮地中田	宮地町667 －１	9,600	道路改良	8. 12. 2～16
9	8E－34	稲荷前	富田町27－１他	5,073.29	水道施設	8. 8. 15～9. 10
10	8C－10	小坂子油田I	小坂子町1252－7	2,204.83	道路改良	8. 11. 21～9. 2. 7
11	8C－11	小坂子油田II	小坂子町1252－2他	2,577.14	道路改良	9. 1. 29～3. 20
12	8G－16	鶴光路練引	鶴光路町59－3	1,780	公民館建設	8. 3. 4～9. 3. 28
13	8H－25	広瀬古墳群（神明）	広瀬町一丁目12－１	280	市営住宅	8. 10. 1～3
14	8H－24	天川二子山古墳II	文京町二丁目地内	30	区画整理	8. 6. 4～7

市内遺跡

平成８年度試掘調査一覧表

番号	調査地	開発面積㎡	調査原因	調査年月日	調　査　結　果
1	総社町総社1671－１他	990	店舗兼事務所	8. 4. 11	溝跡検出。
2	六供町地内	2,503	区画整理	8. 4. 18	水田跡・住居跡検出。六供下堂木II遺跡。
3	櫛島町10－１，11－3	2,701	事務所等建築	8. 4. 23	遺構・遺物ともに検出されず。
4	富田町地内	6,877	県央第2受水場建設	8. 4. 25	古墳・住居跡検出。稲荷前遺跡。
5	荒口町559－１他	3,271	宅地造成	8. 5. 21	遺構・遺物ともに検出されず。
6	鳥羽町151－3	1,633	宅地造成	8. 6. 3	遺構・遺物ともに検出されず。
7	上長磯町282－１	1,568	店舗建築	8. 6. 28	遺構・遺物ともに検出されず。
8	嶺町・小坂子町地内	4,200	ふるさと農道建設	8. 7. 30～31	古墳検出。小坂子油田遺跡。
9	鳥取町地内	160,000	土地改良事業	8. 8. 7～8	縄文～平安時代住居跡検出。鳥取福蔵寺遺跡。
10	今井町123－１，124－１	3,003	工事建築	8. 8. 9	遺構・遺物ともに検出されず。
11	大手町三丁目甲40－１他	1,174.2	群馬県産業会館建設	8. 8. 13	遺構・遺物ともに検出されず。
12	広瀬町三丁目20他	500	市営住宅建設	8. 9. 5	遺構・遺物ともに検出されず。
13	堀之下町123－１・4	3,410	ガソリンスタンド	8. 8. 30	遺構・遺物ともに検出されず。
14	鳥羽町697－１他	4,429.47	宅地造成	8. 9. 11	遺構・遺物ともに検出されず。
15	大友町一丁目13－4・5	1,297.98	教会建築	8. 9. 11	遺構・遺物ともに検出されず。
16	西善町610－１	3,627	農産物加工工場建築	8. 9. 13	遺構・遺物ともに検出されず。
17	上佐鳥町773－１・2,774	6,297	特別養護老人ホーム	8. 9. 13	平安時代水田跡検出。上佐鳥中原前遺跡。
18	箱田町地内	4,264.4	宅地造成	8. 9. 19	遺構・遺物ともに検出されず。
19	広瀬町三丁目37－41	400	市営住宅建設	8. 10. 11	遺構・遺物ともに検出されず。
20	東善町地内	649	道路建設	8. 10. 11	住居跡検出。前田遺跡群の一部
21	江田町字村前19	1,828	アパート建築	8. 11. 19	遺構・遺物ともに検出されず。
22	古市町307－12他	1,832	宅地造成	8. 11. 19	遺構・遺物ともに検出されず。
23	下新田町311－１他	3,843.35	宅地造成	8. 11. 20	平安時代水田跡検出。下新田中沖遺跡。
24	下新田町627－１他	1,626	宅地造成	8. 11. 20	時代不明畠跡検出。部分的に残存。（保存）
25	箱田町1265他	1,691	宅地造成	8. 11. 22	平安時代水田跡検出。部分的に残存。（保存）
26	五代町1301－3	2,919	保育園建築	8. 11. 26	住居跡検出。五代桧峯II遺跡
27	元総社町100－13他	1,707.90	店舗建築	8. 11. 27	遺構・遺物ともに検出されず。
28	南町三丁目35－3他	2,376.49	事務所建築	8. 12. 2	遺構・遺物ともに検出されず。
29	亀里町540	330	消防団詰所建築	8. 12. 19	遺構・遺物ともに検出されず。
30	鶴光路町59－3他	7,062	下川淵公民館建築	8. 12. 26	平安時代水田跡検出。鶴光路練引遺跡。
31	鶴光路町368－3，369－１	1,658	事務所建築	9. 1. 23	平安時代水田跡検出。部分的に残存。（保存）
32	東上野町457－3他	10,000.00	市立養護学校建設	9. 1. 30～31	遺構・遺物ともに検出されず。
33	西片貝町五丁目28－5他	2,531.66	事務所・倉庫建築	9. 2. 5	遺構・遺物ともに検出されず。
34	問屋町10－2他	953.22	事務所建築	9. 3. 3	遺構・遺物ともに検出されず。
35	上長磯町304 －１	2,959.00	ドライブイン建築	9. 2. 21	遺構・遺物ともに検出されず。
36	六供町地内	7,950.00	区画整理	9. 3. 6	古墳～平安時代住居跡検出。六供中京安寺遺跡。

37	二之宮町1810－1	2,431.00	保育園建築	9. 3. 7	遺構・遺物とも検出されず。
38	箱田町1590他	1,800.00	道路改良	9. 3. 18	遺構・遺物ともに検出されず。
39	大手町125 －1	425.75	駐車場造成	9. 3. 26	遺構・遺物ともに検出されず。

市内遺跡外

1	元総社町・総社町地内	710,000	区画整理	8. 6. 13～14	遺跡地（宅地遺跡）
2	上増田・筑井町	16,000	道路改良	8. 7. 12	遺跡地（中原遺跡跡）
3	広瀬町一丁目18	4,000	市営住宅建設	8. 7. 29	遺跡地（広瀬古墳群）
4	箱田町1590他	1,500	道路改良	8. 11. 29	遺構・遺物検出されず
5	総社町桜ケ丘1025－3	7,672	宅地造成	9. 1. 7	遺構・遺物検出されず

平成８年度表面調査一覧表

1	前橋市敷島町265－21ほか	162.93	不動産売買	8. 4. 19	遺構・遺物検出されず
2	前橋市鳥取町地内	160,000	土地改良事業	8. 6. 21	遺跡地（鳥取福蔵寺遺跡）
3	前橋市小屋原町972－13ほか	1,652	店舗建設工事	8. 7. 2	遺構・遺物検出されず
4	前橋市上佐鳥町454 －1	1,255.63	店舗建設工事	8. 7. 8	遺構・遺物検出されず
5	前橋市石倉町14－1	1,055	宅地造成工事	9. 2. 14	遺構・遺物検出されず
6	前橋市東善町335－6	1,636	事務所・倉庫建築工事	9. 2. 20	遺跡地（保存協議中）
7	前橋市小屋原町1631－2	1,064	建築工事	9. 2. 20	

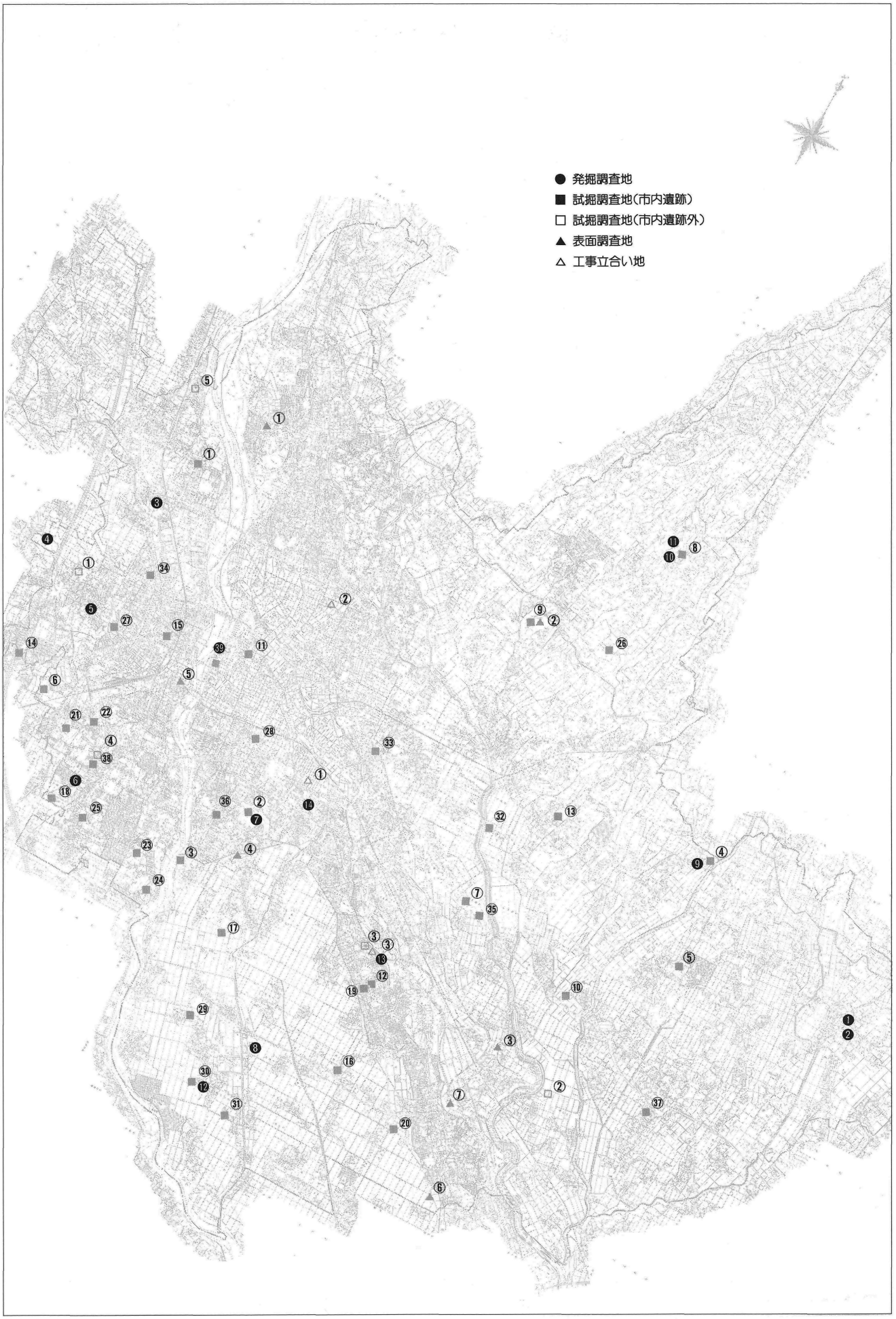
平成８年度工事立会調査一覧表

No.	所在地	開発面積㎡	開発原因	立会日	結果
1	前橋市文京町二丁目14-23	250	区画整理事業	8. 4. 24	遺構・遺物は検出されず
2	前橋市若宮町二丁目地内	6,563	市営住宅団地建設	8. 5. 15	遺構・遺物は検出されず
3	前橋市広瀬町一丁目地内	13,200	市営住宅団地建設	8. 5. 15	遺構・遺物は検出されず

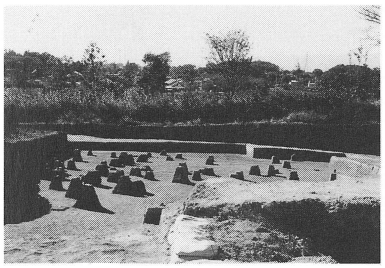
平成年８年度埋蔵文化財調査報告書一覧表

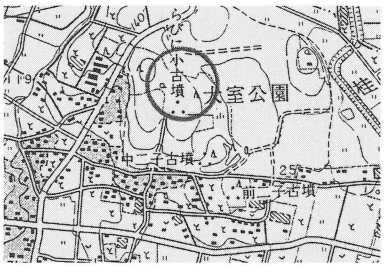
番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備考
1	小二子古墳	小二子古墳	前橋市教育委員会	9. 3. 28	本年度調査
2	内堀遺跡群IV	内堀遺跡群内堀遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	9. 3. 28	〃
3	大屋敷遺跡V	大屋敷遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	9. 3. 28	〃
4	上野国分寺参道遺跡	上野国分寺参道遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	9. 3. 28	〃
5	元総社明神XIII遺跡	元総社明神遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	9. 3. 28	〃
6	稲荷遺跡	稲荷遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	9. 3. 28	〃
7	六供下堂木遺跡	六供下堂木遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	9. 3. 28	〃
8	宮地中田遺跡	宮地中田遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	9. 3. 28	〃
9	稲荷前遺跡	稲荷前遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	8. 11. 10	〃
10	小坂子油田遺跡	小坂子油田遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	9. 3. 28	〃
11	市内遺跡調査報告書	鶴巻山古墳ほか	前橋市教育委員会	9. 3. 28	〃

調査地等位置図



1．内堀遺跡群（第９次調査）





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 大胡）

事業名　大室公園整備事業（公園緑地課）
所在地　前橋市西大室町2120番地他
調査期間　平成８年４月27日～12月３日
担当者　前原　豊・宮内　毅
調査面積　1497㎡

調査の経緯　公園予定地内の埋蔵文化財を発掘調査し、公園整備の基礎資料と記録保存を計るため公園緑地課から調査の依頼があった。調査は昭和62年度に着手され、今年度で10年目を迎える。

立地　前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵性台地に位置する。北に粕川村、東に赤堀町が隣接する。公園には、大室４二子古墳を始め６世紀の豪族館跡である梅木遺跡、古墳時代前期の周溝墓の上縄引遺跡が存在する。また、東２㎞には、昭和４年に東京帝国博物館の後藤守一氏によって調査された赤堀茶臼山古墳が存在する。

Ａ・Ｂ地点（内堀遺跡）　後二子古墳と小二子古墳の北側に予定された管理用道路に伴う調査であり、東西をＡ、Ｂの２地点に分けた。Ａ地点からは、縄文時代早期～後期の土器、石器が数点検出された。

Ｂ地点からは、古墳時代前期の住居跡４軒、後期の住居跡１軒、土坑１基、溝２条、818年の大地震による地割れを検出した。

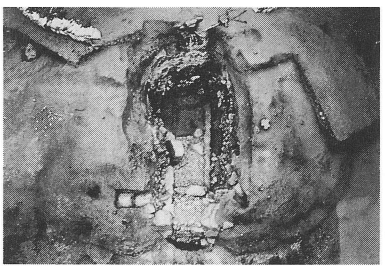
Ｃ地点（下縄引遺跡）　五料沼北側に電気用ケーブル配管工事に伴う立ち会い調査を行った。平成５年度調査のＣ区に隣接する調査区域から、溝１条と井戸跡等を検出。

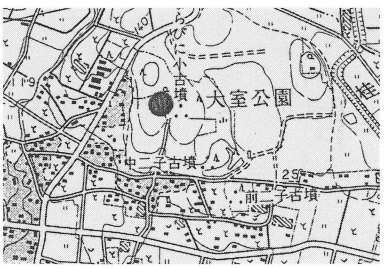
Ｄ地点（内堀遺跡）　内堀４号墳の形状、規模、内容を把握する目的でトレンチ調査を行った。６本のトレンチから、墳丘長17m、周堀長25mの２段築成の円墳であることが判明。また、南東に開口する石室は、石室の石が抜き取られ、大きく損壊を受けていた。形象埴輪（人物・靫・太刀・馬）と２条突帯の円筒埴輪を確認した。

Ｅ地点（内堀遺跡）　平成７年度の調査で民家園に接した南（Ａ区）と東（Ｂ区）の２カ所からＡＴ層下で同一時期に形成された旧石器時代の文化層を検出した。今回はＡ区に残されている未調査の部分を対象とし石器群の全容を解明することができた。２カ年の調査によってＡ区で319点、Ｂで25点、総数344点の石器が得られた。

Ｆ地点（内堀遺跡）　公園の北西部の丘陵は赤城山の山体崩壊によって形成された「流れ山」であり、粗粒輝石安山岩で構成される。安山岩採掘坑は11カ所確認でき、古墳構築に用いられた石もここから採掘されたことが推定できる。試掘調査を実施したが、古墳構築の際に石を採取した穴を検出するに至らなかった。

2．小二子古墳





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 大胡）

事業名　大室公園史跡整備事業
所在地　前橋市西大室町2141番地
調査期間　平成８年６月３日～12月９日
担当者　前原　豊・宮内　毅
調査面積　365.0㎡

調査の経緯　本市では、大室３二子古墳が所在する大室地区に36.9haの総合公園建設を計画した。公園用地内には史跡が存在するため、史跡整備が不可欠となり、史跡整備委員会が組織され、『史跡整備基本構想』が策定された。今回の範囲確認調査はこの構想に基づき、史跡の保護・活用・研究面の資料を収集し、史跡整備の基礎資料を得ることを目的としている。なお、調査は平成３年度に後二子古墳から開始され、平成４年度に前二子古墳、平成５・６年度の２カ年にわたって中二子古墳を実施した。そして、平成７年度から今年度へ継続調査として小二子古墳を実施した。

立地　市の東端、赤城山南麓の丘陵性台地に位置し、北に粕川村、東に赤堀村が隣接する。公園内には大室３二子古墳をはじめ豪族居館跡である梅木遺跡等多数存在する。近接する多田山丘陵には有名な赤堀茶臼山古墳が存在する。

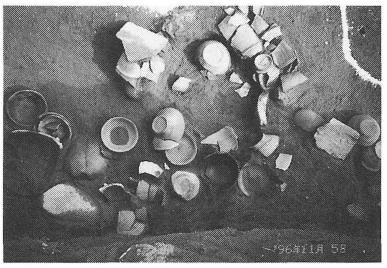
調査成果　小二子古墳は墳丘長38m、幅30.4m、兆域全長43.9m、幅39.4m、高さ5.4mで大室の３二子古墳（前二子・中二子・後二子古墳）と同じく二段築成の前方後円墳である。下段墳丘は前方部で４m、後円部で６mと幅の広い平坦面を有する帆立貝形であるのに対し、上段墳丘は柄鏡形を呈している。古墳を巡る周堀は全周するが、周堀の幅は前方部で狭く浅く、後円部では逆に広く深い。

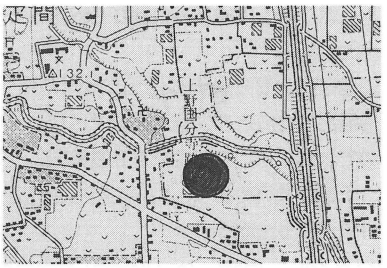
石室は半地下式に袖無型横穴式石室である。下段平坦面を一部掘り込んで墳丘盛土量を抑える工夫が見られる。後世に破壊を受けているが石室内からは直刀、飾り弓金具、鉄鏃、耳環が出土した。石室外からは鍔、鞘口金具、刀子、ガラス製小玉、須恵器提瓶が見つかった。

古墳南側の下段平坦面には円筒埴輪列が確認され、２条の突帯を持つ小型普通円筒埴輪が2.2mの間隔で設置されていた。円筒埴輪の本数は推定で80～90本である。形象埴輪については前方部鞍部から人物・馬が出土し、後円部墳頂からは家・盾・鞆・翳・靫・大刀が出土しており、８種類26個体が確認された。

古墳築造の時期は出土土器から後二子古墳と近接する６世紀後半と推定される。

3．上野国分寺参道遺跡





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 前橋）

事業名　群馬町営国府南部築土地改良事業
所在地　群馬県前橋市元総社町字西川1530番地地先
調査期間　平成８年９月19日～12月20日
担当者　齋藤仁志・吉田聖二
調査面積　3,635㎡

調査の経緯　平成７年７月、群馬町より前橋市教育委員会に上記事業に伴い土木工事を実施したい旨、連絡を受けた。同年10月、前橋市分について、埋蔵文化財調査に関する協議を行った。事業予定地は史跡上野国分寺跡から南方約200mと近接しており遺跡の重要性は推定できる。群馬町の計画する土地改良事業の公共性から協議を行い、その結果、土地改良事業に先立ち同遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施することとなった。

平成８年５月、再協議が行われ、その後の手続きは前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団が中心となって行った。同年９月５日、群馬町長と前橋市埋蔵文化財発掘調査団長との間で発掘調査の委託契約が締結され、本遺跡の埋蔵文化財発掘調査を開始するに至った。

立地　前橋市市街地(県庁付近)から利根川を隔てて西約４kmの地点、前橋市と群馬町との境に所在する。

染谷川を挟み、史跡上野国分寺跡の南方に位置する本遺跡は、利根川右岸の榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地が前橋台地に移行する付近に当たる。本遺跡の南方には県道前橋足門線が東西に、東方には関越自動車道が南北に走る。

本遺跡の周辺に目を向けると、古墳時代後期から終末期にかけて築造された総社古墳群や白鳳期の建立とされる山王廃寺が本遺跡の東北に位置し、北東約1.5kmの前橋市総社町一帯は上野国府の推定地とされている。このことは、本遺跡地が古代上野の中心に位置する地域に含まれるということを意味するものである。

古墳時代　住居跡１軒を検出。竈近くからは、底部に葉脈の文様をヘラ書きした小ぶりな完形の長胴甕が床上に伏せられた状態で出土した。同住居は、出土した遺物などから６世紀後半の住居跡であることが判明した。

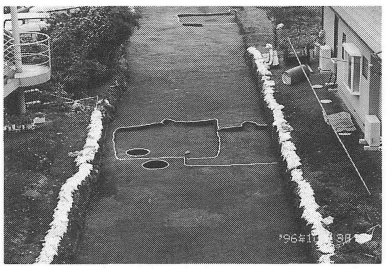
古墳時代の遺構の検出は本遺構のみとなったが、住居外からは臼玉や石製模造品も出土しており、国分寺創建以前の貴重な資料と言える。

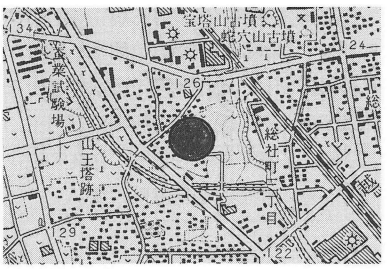
平安時代　住居跡40軒を検出。時期は９～10世紀のものが主体となる。住居址の一辺は３～４m程度で竈は東壁か南東隅に設置されるものが多い。検出された29基の竈のうち少なくとも12基の竈は、補強材として瓦を使用している点が特徴としてあげられる。H－12号住居跡の竈付近からは、内黒土器や墨書土器、灰釉陶器などを含む、おびただしい量の土器が出土した。そのうち完形品は11点であった。

他に特筆すべきものとしては、H－４号住居址から長さ約10cmほどの毛抜き型鉄製品が出土した。また、上野国分寺跡の調査で出土した文字瓦と共通する文字瓦が７点確認された。

なお、本遺跡の名称となっている参道については検出には至らなかった。

4．大屋敷遺跡Ⅴ





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 前橋）

事業名　前橋大屋敷地区土地区画整理事業（施行者　前橋市大屋敷地区土地区画整理組合）
所在地　前橋市総社町総社1991他
調査期間　平成８年５月８日～10月21日
担当者　齋藤仁志・吉田聖二
調査面積　972㎡

調査の経緯　上記事業について平成４年７月27日に５年間にわたる発掘調査に関する覚書が締結され、過去４年間、覚書に基づき調査が行われてきた。調査最終年度となる今年度は、平成８年４月24日に発掘調査委託契約が締結され本調査を実施することとなった。

立地　本遺跡は、前橋市街地から北西約３kmの位置に所在し、榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地の扇頂部より流下する河川群のひとつ、八幡川左岸域の標高約123mの微高地上にある。総社古墳群、上野国府推定地、山王廃寺等の遺構が近在する。

縄文時代　遺物包含層より、縄文時代中期の土器・石器を検出したが、遺構は確認されなかった。

弥生時代　なし。

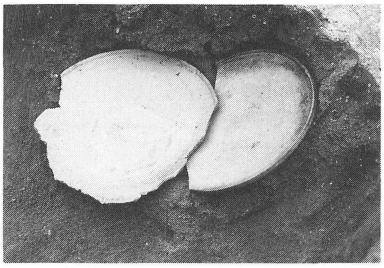
古墳時代　古墳時代後半の住居址８軒を検出した。３窓の透し孔を有する須恵器無蓋高坏や坏・蓋等の遺物が出土している。

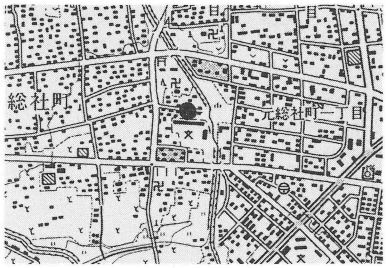
奈良・平安時代　奈良・平安時代前半の住居址５軒を検出。遺物は、坏・甕・鉢・椀等が出土している。ほとんど９世紀代までの遺物であり、10世紀代の遺物は、羽釜等数点である。

その他　５年間にわたる大屋敷遺跡の調査が終了した。５年間の総調査面積は9,465㎡におよび、検出した住居址総数289軒、溝址総数14条、土坑総数171基を数える。

大屋敷遺跡Ⅳで出土した金属製品の中に金銅製品があったが、今回鑑定の結果金銅製鈴具であることが判明した。群馬県内では金銅製腰帯の飾り具の出土は４例あるが、金銅製鈴具は県内で初めての出土になると思われる。

5．元総社明神遺跡XIII





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 前橋）

事業名　前橋都市計画事業元総社（西部第三明神）地区土地区画整理事業（施行者　前橋市長）
所在地　前橋市元総社町2407－10他
調査期間　平成8年5月20日～6月28日
担当者　戸所慎策・古屋秀登
調査面積　120㎡

調査の経緯　西部第三明神地区土地区画整理事業（認可昭和57年6月）の実施に伴い、事業区画が“推定上野国府”域内である重要性を鑑みて、施行者と市教委で協議・調整のうえ57年以来発掘調査を進めているものである。今年度の第13次調査で発掘調査は終了することとなった。発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団が実施した。

立地　市役所・県庁などの所在する前橋市街地より西方約2㎞に位置する。榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の端の前橋台地の縁辺に立地する。本地域は上野国の古代政治の中心である上野国府が置かれ、平安中期には上野国中の神社を勧請した総社神社（明神）がある。今年度の調査地34トレンチは元総社小学校の北側で、33トレンチの西側にあたる。周辺には、総社古墳群・国分寺・山王廃寺・蒼海城址・八日市城址などがあり、古墳時代からの中世・近世初頭に及ぶ政治・文化の中枢地域であったことを窺わせる。

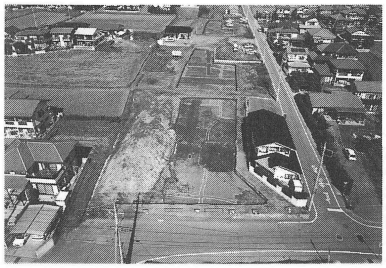
縄文時代・弥生時代　なし。

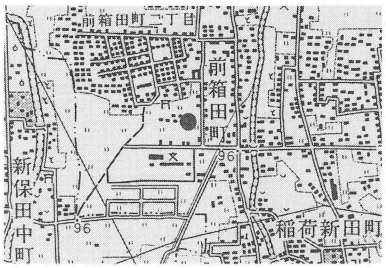
古墳時代　住居址1軒を検出。遺物は石田川式土器片を出土している。石製模造品や臼玉も検出した。住居址は6世紀のものである。

奈良・平安時代　住居址7軒を検出したが、切り合いが多く、また、攪乱があり、住居址プランに不明な部分が多い。遺物は、土師器・須恵器・陶磁器・瓦等を多数出土した。中でも硯・墨書土器は、国府との関係を窺わせる。墨書土器は「介」の文字の可能性が高い。H－7号住居址からは、8世紀中頃の畿内式暗文土器が出土した。H－10号住居址からは須恵器の蓋が2枚重なって出土した。

その他　焼土を8基検出した。当初は住居址の竈と思われたが、竈と確認できなかったので、焼土とした。土坑を8基検出したが、1基は墓坑であり、他の土坑も時代決定はできなかった。

6．稲荷遺跡





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 前橋）

事業名　前橋市都市計画道路3・4・19号新前橋川曲線道路改良工事（施行者　前橋市長）
所在地　前橋市箱田町281－1他
調査期間　平成8年7月24日～12月18日
担当者　戸所慎策・古屋秀登
調査面積　7600㎡

調査の経緯　平成7年10月25日に前橋市都市計画部街路課から開発計画地の埋蔵文化財について照会があった。周辺で多くの遺構が検出されているため、試掘調査の必要がある旨を回答。平成7年11月13日に試掘調査を実施した結果、浅間山の噴火（1108年）に伴って埋もれた水田址が確認されたため、開発に先だって、記録保存のための発掘調査を、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が実施することとなった。

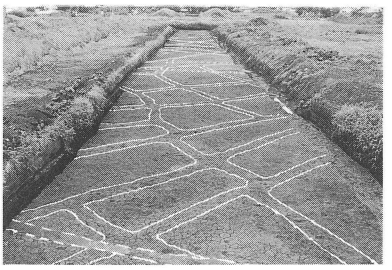
立地　前橋市街地の南西約3㎞に位置する。榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の端の前橋台地の縁辺に立地する。

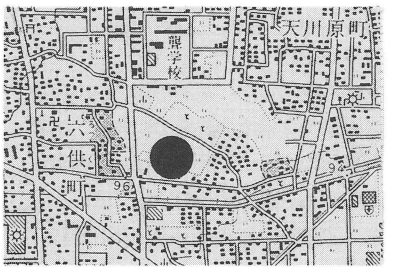
遺跡地の南には、前橋市立箱田中学校があり、この付近は高崎市との市境界線が複雑に入り組んでいる。標高は約97mで、北西から南東にかけて緩やかに傾斜している。また、周辺には日高遺跡をはじめ勝呂遺跡、前箱田遺跡、西島遺跡等の水田址を中心とした遺跡が数多く存在する。

古墳時代　浅間山噴火に伴う軽石層（As－C）に覆われた古墳時代前期の水田址を検出した。畦畔は南側のF区では検出できたが、その他の調査区では、検出できなかった。溝を38条検出した。また、溝周辺からは多数の足跡も検出した。

平安時代　1108年の浅間山噴火に伴う軽石層（As－B）に覆われた平安時代末期の水田址を検出した。水田址は51枚を検出したが、調査区が狭小なため、四隅を畦畔で囲まれた水田址は一枚も検出できなかった。北側のA・B区と南側のE・F区は畦畔の残り方は良かった。半円形の耕作痕や人の足跡を検出した。坪境畦畔が検出されなかったため条里制とのかかわりについては不明だが、本遺跡の南方に位置する高崎市の西島遺跡では、条里制施行の指標とされる坪境畦畔とその交点（条里交点）が検出されており、本遺跡の水田址も、西島を中心とした条里に含まれる可能性が高い。

7．六供下堂木II遺跡





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 前橋）

事業名　六供土地区画整理事業（区画整理一課）
所在地　前橋市六供町地内
調査期間　平成８年５月１日～８月９日
担当者　坂口好孝・佐藤則和
調査面積　5,861㎡

調査の経緯　平成８年３月、区画整理一課より上記事業に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼が提出された。同年３月、試掘調査を実施したところ、平安時代の水田址が確認された。区画整理一課と協議・調整を行い、８年４月発掘調査の依頼が提出され、４月に発掘調査の委託契約を締結し、現地での発掘調査を開始するに至った。

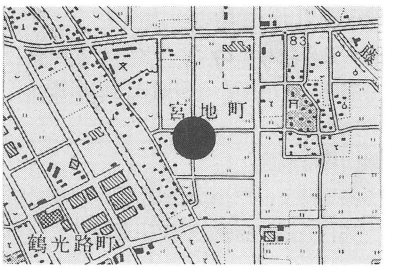
立地　六供下堂木II遺跡は、前橋市街から南へ約２㎞に位置している。利根川左岸と広瀬川低地帯の中間の前橋台地の東方に位置する。

調査の概要

水田址　平安時代末期（天仁元年・1108年）の浅間山噴火に伴う軽石（As－B軽石）で埋没した水田址38枚を検出した。遺構面は現耕作土下約30～40㎝にあり、水田と畦畔の遺存状況は悪く、畦畔は後世の圧縮を受け、２～９㎝の偏平な台形状またはカマボコ型に近い形状を呈している。条里制に伴う坪境畦畔は検出されなかったが、畦畔の走向方位や方形区画から条里的地割も考えられる。また、Hr－FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭。古墳時代）で埋没した古墳時代の水田址136枚も検出された。Hr－FAの堆積が薄く、依存状況は極めて悪かったが、１枚４～９㎡の小区画が規則的に配列されていることが確認された。

住居址　古墳時代初期の石田川式土器を伴う住居址２軒、奈良～平安時代の住居址３軒、時期不明の住居址１軒の計６軒の住居址が検出された。いずれも、後世の耕作により住居址上部が壊されていて、出土遺物も古墳～奈良・平安時代の土器片が混ざって出土した。床面まで10㎝と浅いため、竈が確認できたものはわずかに２軒で、炉址や柱穴・貯蔵穴についても確認できなかった。古墳時代に集落が営まれ、そして時代を経て奈良・平安時代に再び集落が営まれたと考えられる。

8．宮地中田遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 前橋）

事業名　都市計画道路朝倉玉村線道路改良事業（街路課）
所在地　前橋市宮地町地内
調査期間　平成８年10月21日～12月13日
担当者　坂口好孝・佐藤則和
調査面積　9,600㎡

調査の経緯　平成７年10月、街路課より上記事業に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼が提出された。同年11月、試掘調査を実施したところ、平安時代の水田址が確認された。街路課と協議・調整を行い、８年８月発掘調査の依頼が提出され、10月に発掘調査の委託契約を締結し、現地での発掘調査を開始するに至った。

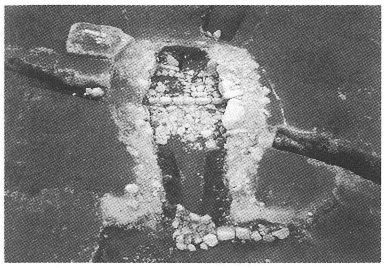
立地　宮地中田遺跡は、前橋市街から南東へ約５㎞に位置している。本遺跡の南方2.5㎞には利根川が北西から南東に流れ、対岸は玉村町と隣接する。遺跡地周辺の地形はほぼ平坦で、現在も水田が広がっている。

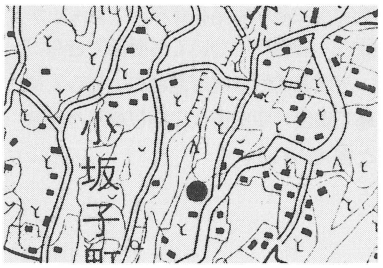
調査の概要　平安時代末期（天仁元年・1108年）の浅間山噴火に伴う軽石（As－B軽石）で埋没した水田92枚を検出した。遺構面は現耕作土下約30～40㎝にあり、水田と畦畔の遺存状況は良好であった。検出された畦畔は61本で、東西・南北の方位にほぼ合致している。畦畔の構造は下幅30～70㎝、水田面からの高さ１～６㎝、断面形は、偏平な台形状またはカマボコ型に近い形状を呈しており、同時代の水田址と比較すると、若干圧縮され、偏平な形状に変形している。水口は18箇所検出され、各水田への給水方法は基本的には標高差を利用した「かけ流し」の方法をとっていたとも考えられる。

また、幅１m近い畦畔が東西方向３本、南北方向１本、坪交点が２カ所検出された。このうち、東西方向の３本は各間隔が約109mになっているため、条里的地割の１坪を形成する坪境畦畔と考えられる。１坪の内部の土地区画は東西を５分、南北を２分の計10分割する半折型地割であることがわかった。これらのことから、本遺跡から検出された水田は条里制水田址と考えられる。

本遺跡周辺からの条里制水田址は今まで検出されておらず、前橋南部の条里制水田址を調査研究するうえで数少ない貴重な遺跡である。

9．小坂子油田Ⅰ遺跡





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 大胡）

事業名　ふるさと農道緊急整備事業
所在地　前橋市小坂子町油田1252－7他
調査期間　平成8年12月21日～9年2月7日
担当者　井野誠一・飯塚　誠・荻野博巳（スナガ環境測設）
調査面積　2204.83㎡

調査の経緯　平成7年7月25日に本遺跡地での土木工事実施の連絡があり、表面調査を行ったところ遺跡の所在が確認され、平成8年7月30日31日に試掘確認調査を行ったところ、古墳が検出された、この古墳は上毛古墳綜覧にある芳賀村第42号墳であることが判明したため、保存協議を行ったが現状保存は困難であるとのことで、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査はスナガ環境測設に委託をしておこなわれた。

立地　本遺跡は赤城山南麓の南東に傾斜する台地上に立地している。西側は開析谷を利用しての水田が作られている。

周辺には、地番からみると、今回調査が行われた芳賀村第42号墳の他に39から41号墳までの3基の古墳が記録として残されている。しかし、現状では古墳と認められる高まりは見られない。

縄文時代

前期から中期までの土器片は出土したものの、遺構は確認されなかった。

古墳時代

古墳1基を検出した。芳賀村第42号墳。円墳。規模は周堀の外側で東西長32.4m、南北長34.0mを測る。

主体部は南に開口する横穴式石室である。石室長は6.18m、玄室長2.93m、玄室奥幅1.64m、玄室前幅1.78m、羨道長3.25m、羨道幅0.8～1.0mを測る。

遺物としては、鉄鏃片と須恵器片が検出された。

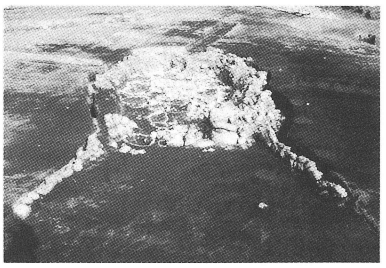
時期は古墳時代末期の7世紀末に造られたと見られる。

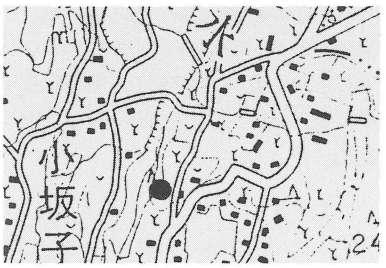
奈良・平安時代

溝1条を検出した。南北方向に、小坂子油田Ⅱ遺跡の2号墳の周堀の西側と、小坂子油田遺跡の1号墳の西側の周堀を利用して流れている。堀の部分では幅が広い。

なお、本遺跡は引き続いて調査が行われた小坂子油田Ⅱ遺跡に隣接している。また、芳賀村第42号墳の一部は小坂子油田Ⅱ遺跡で検出、調査がなされた。

10．小坂子油田Ⅱ遺跡





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 大胡）

事業名　ふるさと農道緊急整備事業
所在地　前橋市小坂子町1252－2他
調査期間　平成9年1月29日～3月20日
担当者　井野誠一・飯塚　誠・荻野博巳（スナガ環境測設）
調査面積　2,577.14㎡

調査の経緯　小坂子油田遺跡調査に伴う平成8年11月の協議において、農道建設に伴い隣接する農地も現地盤の削平が行われることが明らかになり、同年11月から12月にかけて試掘調査を行ったところ古墳が確認されたため、協議の結果記録保存の発掘調査を実施することとなった。遺跡名は小坂子油田Ⅱ遺跡とした。

調査の概要

縄文時代　縄文前期から中期頃までの土器片や石器が検出されたが、遺構と認められたのは陥し穴三基のみであった。

陥し穴は、2号古墳の周堀内と3号古墳の周堀内から検出されている。いずれもほぼ南北に長い楕円形を呈し、それぞれ、10・20・24mの間隔で、標高239.20mから240.70mの範囲でほぼ等高線に沿って検出されている。

底面には2基ないし3基の逆茂木の跡がみとめられた。

古墳時代

古墳2基、小石郭1基を検出した。2号古墳は円墳で、周堀は北・南側が広くあいている。主体部は両袖式の横穴式石室をもち、石室内から大刀・鉄鏃・刀子等が出土している。石室長4.95m、玄室長2.25m、玄室奥幅1.70m、玄室前幅1.40m、羨道長2.70m、古墳の規模は東西長23m、南北長18.1mを測る。

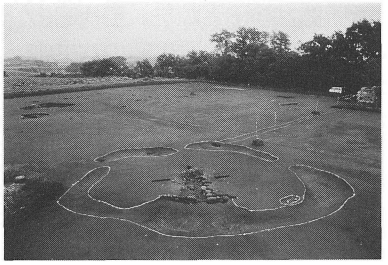
3号古墳は2号古墳の南で円墳である。周堀の北東部と南があいている。主体部は両袖式の横穴石室を持ち、鉄鉾と二叉鉾の一部が検出されている。石室長4.4m、玄室長2.0m、玄室奥幅1.54m、玄室前幅1.14m、羨道長2.40m。古墳規模は東西長17.6m、南北長13.9mを測る。

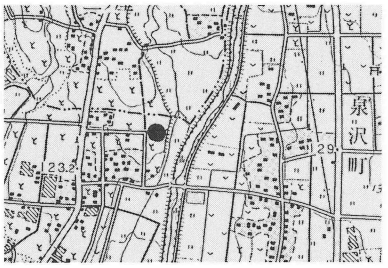
古墳の造られた時期は、7世紀後半以降とみられる。2号墳と3号墳は古墳綜覧もれとみられる。

奈良・平安時代

溝1条を検出した。確認面にAs－B層の堆積が見られた。古墳の周堀と重複している。

11. 稲荷前遺跡





遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 前橋）

事業名　富田受水場造成事業
所在地　前橋市富田町27－1番地外
調査期間　平成8年8月15日～9月10日
担当者　井野誠一　飯塚　誠　荻野博巳
（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　5,073.29㎡

調査の経緯　平成8年4月19日に前橋市水道局より埋蔵文化財確認調査の依頼があり、確認調査を25日に実施したところ、縄文時代から古墳時代の遺構が確認された。現状保存が困難であるとのことで、記録保存の発掘調査を実施することとなった。発掘調査はスナガ環境測設株式会社に委託をして実施した。

立地　赤城山南麓末端の緩やかに南西に傾斜する台地上に立地する。標高は127～129mを測る。東側は荒砥川により削られて、比高差約10mの浸食崖になっている。調査地の南は700m先で舌状台地の先端となっている。本遺跡の南に位置する荒砥355号墳は前方後円墳であり、後円部墳頂には富田の宝塔がたてられている。富田町には古墳綜覧で21基の古墳が確認されているが、近年の土地改良に伴う発掘調査でも未記載の古墳が検出されており、本遺跡周辺でも古墳の所在が想定された。

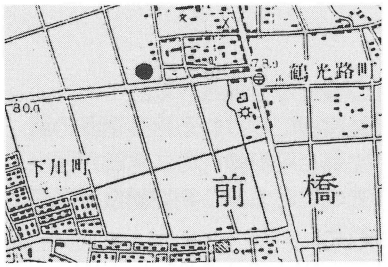
縄文時代　竪穴状遺構1基と陥し穴1基を検出した竪穴状遺構からは前期の土器が出土している。住居跡に後世の断面ロート状の遺構の重複とも見られる。

古墳時代　竪穴住居跡1軒と古墳2基を検出した。竪穴住居跡は6世紀代のもので、2号古墳と近接した時期のものである。1号古墳は形状及び埴輪がみられないことなどから、7世紀代とみられる。1号古墳は東西長17.5mで、南北長18.85mの円墳で、主体部は南西に開く横穴式の両袖式石室である。石室長4.15m、玄室長2.05m、玄室奥幅1.1m、玄室前幅1.0m、羨道長2.1m、羨道幅0.9～1.2mを測る2号古墳は円墳で、規模は東西長8.86m、南北長8.82mを測る。墳丘はすでに削平されており、主体部は検出されなかった。円筒埴輪片が周堀内などから出土している。

近世　溝を検出した。遺物は検出されなかった。

時期不明　耕作跡と地割れ跡、風倒木跡、土杭を検出した。

12. 鶴光跡練引遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千万分の1 前橋）

事業名　公民館用地造成及び公民館建設
所在地　前橋市鶴光路町59－3他
調査期間　平成9年3月4日～3月28日
担当者　井野誠一　飯塚　誠　野平伸一
（山武考古学研究所）
調査面積　1,780㎡

調査の経緯　平成8年10月25日に、事業課の生涯学習課より本遺跡地での土木工事の連絡が入る。同年12月26日に試掘確認調査を行ったところ平安時代の水田跡が検出された。

平成9年1月9日に協議を実施した結果、現状保存は困難であるとのことで、発掘調査の依頼が提出され、記録保存のための発掘調査が行われることとなった。

調査の状況　遺跡地周辺は前橋市南部の条里水田の地域内に位置する。周辺には横手湯田遺跡等の遺跡が多く、古墳時代からの水田が検出されている。平安時代の水田も周辺で多く調査が行われている。

本遺跡の水田は1108年に浅間山の噴火によって降下した砂層の下から検出された。

調査区中央の東西に幅約70～100cmの大畦と南北に幅約40～50cmの畦が検出された。水田面の標高は約78.30～78.50mである。水口は一カ所検出された。水路は検出されなかった。

一部から動物の足跡と思われるものが検出された。

13. 市内遺跡発掘調査

事 業 名　埋蔵文化財発掘調査事業（市内遺跡発掘調査事業）
所 在 地　市内
調査期間　平成８年４月２日～平成９年３月31日
担 当 者　飯塚　誠・井野誠一
調査面積　2,979㎡

調査の概要　平成８年度は39件の確認調査を実施した。そのうち13カ所で遺跡が確認された。13遺跡のうち５遺跡は８年度中に記録保存の発掘調査が実施され、５遺跡は９年度に発掘調査の予定があり、３遺跡は保存協議中である。

調査　六供町の六供下堂木遺跡は、水田跡等が検出され、富田町の稲荷前遺跡では古墳及び住居跡等が検出され、小坂子町の小坂子油田II・III遺跡では古墳と住居跡が検出された。東善町の前田遺跡では住居跡が検出された。鶴光路町の鶴光路練引遺跡では水田跡が検出された。

協議　鳥取町の鳥取福蔵寺遺跡では住居跡が検出され、広瀬町の上川淵鶴巻遺跡では住居跡が検出され、上佐鳥の上佐鳥中原前遺跡では水田跡が検出された。下新田の下新田中沖遺跡では水田跡が検出された。五代町の五代桧峯II遺跡では住居跡が検出され、六供町の六供中京安寺遺跡では住居跡が検出された。

保存　下新田町の水田跡及び鶴光路町の水田跡については現状保存されることになった。

14. 遺跡台帳整備事業

事 業 名　遺跡台帳整備事業
事業期間　平成８年４月１日～９年３月31日
担 当 者　井野誠一・飯塚　誠

事業の概要　遺跡台帳整備事業では、年間を通じて市内での発掘調査や各種確認調査の資料を元にして、遺跡の資料を台帳化しており、その資料を元に各種開発に対応をしている。

平成８年度は、市内遺跡の一覧表(作成済)をもとにして、古墳台帳の作成に着手した。作成は９年度以降も続く予定である。

遺物の整理では、大室古墳群出土の埴輪・石器で未整理になっていたものの、復元および実測をおこなった。

資料整備としては、市指定史跡の荒砥富士山古墳の測量を行った。

資料の展示では、市役所一階のガラスケースに「ふいご」・「上下」等の展示を行った。また、学校への貸し出し・展示では第二中学校及び天川小学校での資料室整備及び展示の支援を行った。これは、９年度以降も行う予定で準備を行っている。

普及資料作成では、平成７年度発掘調査の成果をパンフレットにまとめ配布を行った。７年度は内堀遺跡の旧石器を中心に作成を行った。

15. 調査会調査

前橋市内の開発に先立つ埋蔵文化財発掘調査地で、県教育委員会を中心として調査会を設立し、市教育委員会も役員として参加し、発掘調査を行っているもの。市内の国・県事業にかかわるもので、発掘調査は民間調査機関に委託をして実施している。

事務手続きの一部と、遺物の管理は市教育委員会で担当している。

平成８年度は、総社観音沢遺跡及び川白田遺跡の整理作業が行われ、整理作業の終了した県立文書館、青梨子金古境、西善鍛冶屋遺跡の遺物が返還された。

また、県立しろがね学園建設にかかわる吾妻遺跡の調査が開始され、古墳及び土杭と平安時代の住居跡が検出された。また、住宅団地造成にともなう発掘調査が準備に入り、試掘調査が行われた。

5．大室公園史跡整備事業

（1） 大室公園史跡整備委員会

平成８年度は、大室公園史跡整備委員会を開催すると共に、委員会の下で、より専門的、実務的な業務を担当する古墳整備部会(小二子古墳発掘調査、前二子・中二子・小二子古墳整備基本設計)、民家変遷部会(赤城型民家主屋及び付帯施設工事)、資料館部会(展示・建設基本計画策定)を、それぞれ３～４回開催し、事業を進めてきました。

各部会の詳しい事業内容については別記しましたが、その他に、部会、部会長会、委員会等の事業の進捗に合わせて、事務局の打合わせも７回開きました。

○平成８年度大室公園史跡整備委員会の経緯

- 平８・４・５…文化庁への事業報告及び検討
- 平８・６・27…　　〃
- 平８・８・14…　　〃
- 平９・１・24…大室４古墳整備国庫補助事業化に向けての文化庁ヒヤリング
- 平９・２・６…部会長会議開催(通算６回目)
- 平９・２・20…文化庁への平成８年度全体事業報告
- 平９・２・28…平成８年度大室公園史跡整備委員会開催(通算第10回目)

委員会会議風景

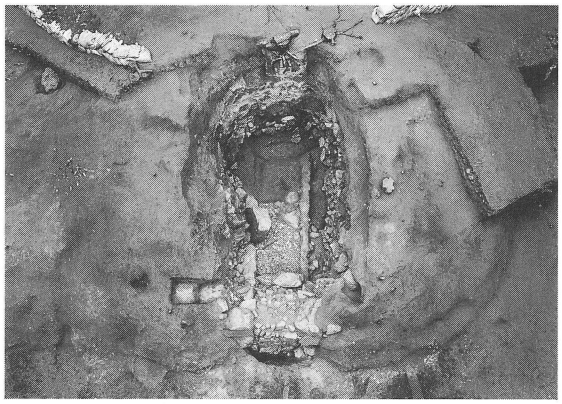
（2） 古墳整備部会

整備を計画している大室４古墳の中で、唯一全面的な復原整備を目指す小二子古墳について、昨年に引き続き古墳の規模・形状・構造等、復原に向けての基礎資料を得るため、２年計画の２年目に当たる発掘調査を実施しました。

また、この発掘調査を含め、これまでの諸調査(古墳範囲確認調査、石室安定度調査等)の結果をもとに、昨年完了した後二子古墳の基本設計に続き、前二子、中二子、小二子古墳の基本設計を作成しました。

○小二子古墳発掘調査(２年計画２年次)の結果

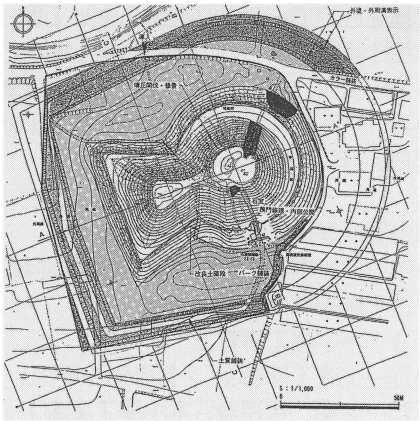
- 上段と下段の墳形が異なる前方後円墳で、前方部に比べて後円部が際立って高く、形状を有する。
- 精査の結果、古墳の規模は、墳丘長38.0m、後円部径30.4m、前方部幅17.8m、全長43.9m、幅39.4mである。
- 周堀が墳丘の周りを一周し、後円部の周りは広く深く造られ、前方部の周りは狭く浅い。
- 下段墳丘(１段目)は地山整形で盛土はなされていない。
- 上段墳丘(２段目)は盛土で築造され、後円部には主にローム土を用いるが、前方部は黒色土が使用されている。
- 石室は、主軸に対して大きく西に振れる半地下式の袖無型横穴式石室であり、玉石の床の一部と閉塞石及び壁石の一部が残る以外は著しく破壊されている現状である。
- 石室の規模は、根石抜き取りの痕跡や天井石被覆の粘度層等から、全長６m、幅1.8m、高さ1.8mと推定される。
- 石室内より、ガラス玉(黄・緑・青)、鉄鏃、弓、直刀が出土し、前庭部より、墓前祭祀に用いられた土師器杯８個体、須恵器提瓶１個体が出土した。
- 以上の事が判明しました。



小二子古墳石室発掘状況

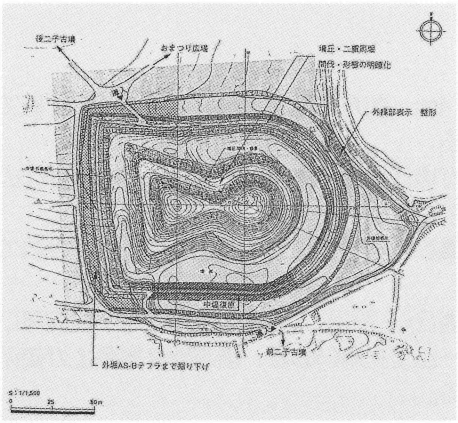
○前二子、中二子、小二子古墳整備基本設計

〈前二子古墳整備〉



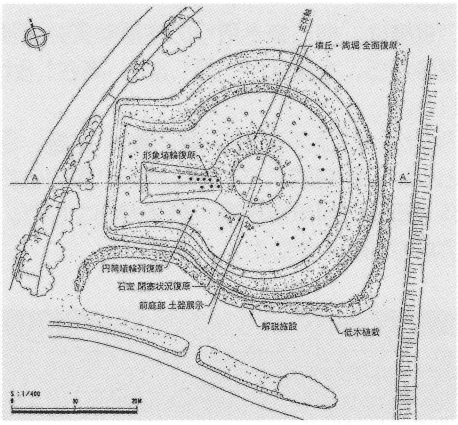
全体計画平面図

〈中二子古墳〉



全体計画平面図

〈小二子古墳〉



全体計画平面図

○平８年度古墳整備部会の経緯

- 平８・６・27…平成８年度第１回部会開催
- 平８・８・21…　〃　第２回部会開催
- 平８・10・９…　〃　第３回部会開催
- 平９・１・29…　〃　第４回部会開催

（３） 民家変遷部会

昨年度より３カ年の予定で開始された赤城型民家建設工事の２年次工事を実施しました。今年度は、前橋市の重要文化財に指定されている主屋復原の後半工事、及び管理棟、木小屋の建設、さらに土蔵の基礎工事を行いました。尚、主屋の復原に際しては、後の活用を考慮し、小舞いかき作業、荒壁塗作業等の工事過程をＶＴＲで撮影して記録保存を行いました。

○赤城型民家主屋及び付帯施設工事の経過

- 平８・８・26…主屋継続工事開始（２年計画２年次）
- 平８・10・26…管理棟工事着工
- 平８・12・９…木小屋工事着工
- 平９・１・23…土蔵工事着工（２年計画１年次）
- 平９・３・25…主屋、管理棟、木小屋工事竣工
- 平９・３・31…建物引渡し

（民家主屋および付帯施設工事風景）

○平成８年度民家変遷部会の経緯

- 平８・７・16…平成８年度第１回部会開催
- 平８・10・８…　〃　第２回部会開催
- 平８・12・18…　〃　第３回部会開催
- 平９・１・28…　〃　第４回部会開催

（４） 資料館部会

大室古墳資料館建設に向け、前年度までに策定が終了している展示及び建物全体の基本構想について、同時展開している古墳整備事業並びに民家建設事業の進捗により新たに浮上してきた検討事項も踏まえ、さらに具体的な内容検討を実施しました。

○基本構想検討内容（抜粋）

- 建物・施設
  - ①十分な雨宿りスペースの確保について（急な天候異変の際の団体見学者への配慮が必要。）
  - ②休憩施設の設置について（来館者のためのくつろぎスペースはおろそかにできない。）
- 展示
  - ①古墳等の屋外施設と資料館展示との整合性について（内部と外部の展示機能・学習機能の明確化・分担が必要。特に、資料館に設置を計画している石室模型の展示内容と古墳石室整備計画との調整は十分に検討を要する。）
  - ②大室公園建設地内の発掘調査により出土した旧石器の展示への組み込みについて（大室公園の地域・風土を理解する上で、何れかの方法・場所での展示を要する。）
  - ③いじったり触ったりできる展示方法の工夫（大室古墳群の出土資料での実施は難しいが、類似品や複製品で対応し、体験できる展示を心掛けることは必要。）

○平成８年度資料館部会の経緯

- 平８・７・２…平成８年度第１回部会開催
- 平８・12・４…　〃　第２回部会開催
- 平９・１・30…　〃　第３回部会開催

あ と が き

文化財は、昔の人々の努力と技術そしてその時代に生きた人たちの願いの結晶ともいうべきものです。これらを引継、未来へ受け渡しをすることが現代に生きる私たちの責務です。この責務の一端を担うのが文化財保護の仕事であると考えますが、これからは文化財を保護・保存するだけではなく、利活用がおおきなウエイトを占めてくるものと思われます。

私たちの祖先が残してくれた文化財に、市民の皆様が触れ、親しんでこそ、「文化財が生きる」と考えています。

このような時代の流れに即して、文化財保護課職員一同、文化財保護行政を進めておりますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

平成９年９月

文化財保護課長
川　合　　功

平成８年度

前橋市文化財調査委員
近藤　義雄
丸山　知良
松島　榮治
阿久津宗二
梅沢　重昭

平成８年度

文化財保護課職員

文化財保護課長	川合　功
文化財保護課係長	宮下　寛
埋蔵文化財係長	駒倉　秀一
主　査	江原　清
〃	園部　守央
〃	唐澤　保之
〃	井野　修二
主　任	井野　誠一
〃	前原　豊
〃	飯塚　誠
〃	真塩　欣一
〃	斎藤　仁志
〃	戸所　慎策
〃	坂口　好孝
〃	古屋　秀登
〃	林　信也
主　事	吉田　聖二
〃	佐藤　則和
〃	宮内　毅
専門委員	阿久津宗二

平成８年度文化財調査報告書第27集

平成９年９月25日印刷
平成９年９月30日発行
発　行　前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市上泉664－４
印　刷　上毎印刷工業株式会社

表紙　前橋市蚕糸記念会館